

令和5年度

長期研修講座研究報告本編

「労働と健康」に係る社会的対策の 認識を深める科目保健の授業

—多様な視点から考える対話的な活動を通して—



働く人の健康・安全に関する内容を総合的に捉えるための
多様な視点から考える学習活動



神奈川県立総合教育センター

体育指導センター 長期研究員

神奈川県立秦野曾屋高等学校 富田 壮

目次

第1章 研究を進めるにあたって

| | | |
|---|-------|---|
| 1 | 研究主題 | 1 |
| 2 | はじめに | 1 |
| 3 | 研究の目的 | 2 |
| 4 | 研究の仮説 | 2 |
| 5 | 研究の方法 | 2 |

第2章 理論の研究

| | | |
|---|----------------------|---|
| 1 | 高等学校「科目保健」について | 3 |
| 2 | 本校の実態と筆者の課題について | 6 |
| 3 | 「労働と健康」に係る社会的対策について | 6 |
| 4 | 認識を深めることについて | 7 |
| 5 | 多様な視点から考える対話的な活動について | 7 |
| 6 | 保健の授業評価について | 8 |

第3章 検証授業

| | | |
|---|-----------------------|----|
| 1 | 検証授業 | 9 |
| 2 | 検証方法 | 9 |
| 3 | 単元の目標・評価規準・指導と評価の計画概要 | 12 |
| 4 | 学習指導の工夫 | 14 |
| 5 | 授業の実際 | 20 |
| 6 | 結果と考察 | 24 |

第4章 研究のまとめ

| | | |
|---|----------|----|
| 1 | 研究の成果 | 39 |
| 2 | 研究の課題と展望 | 40 |
| 3 | おわりに | 40 |

[引用・参考文献等]

第1章 研究を進めるにあたって

1 研究主題

「労働と健康」に係る社会的対策の認識を深める科目保健の授業
—多様な視点から考える対話的な活動を通して—

2 はじめに

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編』（以下、『解説』という）では、保健の思考力、判断力、表現力等に関する資質・能力の育成について、「個人及び社会生活における健康・安全に関する内容について科学的に思考・判断し、総合的に捉えるとともに、それらを、筋道を立てて他者に表現できるようにすること」（文部科学省 2019 p.198）が求められている。

一方で、日本学校保健会は、高等学校の科目保健の授業の現状について、「思考、判断、表現等を促す学習活動を取り入れた授業は十分な実施状況にはない」（日本学校保健会 2022）と指摘している。このことから、生徒の「思考力、判断力、表現力等」の育成を重視するための学習活動を積極的に取り入れることが重要であり、そのための指導方法の工夫が必要である。

勤務校においては、令和4年度より「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでおり、昨年度は「対話的な学び」に重点を置いた授業改善を行った。筆者の授業では、個人の健康・安全に関する課題を見付け、他者との対話を通して解決方法を考え、それらを表現する活動を中心に行ったが、一方で、社会生活における健康・安全に関する内容は、社会の課題や対策について知識中心の一面的な指導になってしまっていた。特に「労働と健康」の内容では、『解説』において、「働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことを理解できるようにする」（文部科学省 2019 p.209）と示されているように、健康・安全に関する内容を総合的に捉えることを目指しているにもかかわらず、個人の健康と社会的対策を結び付けて考え、働く人の健康・安全のために社会的対策が行われていることを十分に認識させることができていなかった。

「平成27年度高等学校学習指導要領実施状況調査教師質問紙調査（保健）」では、「労働と健康」の内容は「生徒が興味・関心を持ちにくい」と70.5%の教師が回答している。これは、同じ「生涯を通じる健康」の内容のまとまりの「思春期と健康」の8.4%や「結婚生活と健康」の7.0%と比べても非常に高い数値となっており、多くの教師が課題意識を持っていることが分かる（国立教育政策研究所 2015）。このことから、「労働と健康」の指導にあたっては、生徒が興味・関心を持てるよう、指導方法の工夫が必要であると考えられる。

藤原は、保健の授業づくりについて、多様な健康の捉え方が存在するがゆえに、「保健の授業において、どれか一方の健康観を強調することは避けるべきである。価値観、考え方、捉え方のような生き方に直結するものを一面的に捉え、教育することの危険性については、道徳教育にも示されている」とし、「目指すべきは、多様な視点で健康について主体的に生徒が自ら考え、将来、自らの健康観を確立できるようになる授業であろう」（藤原 2023）と述べている。このことから、働く人の健康・安全に関する内容を総合的に捉えるために、多様な視点で考える学習活動を取り入れた授業を行うことが重要であると考えられる。

本研究では、「労働と健康」の授業において、生徒が健康課題を見付け、解決方法を多様な視点から考える対話的な活動を行うことで、個人の健康と社会的対策を結び付けるなど総合的に捉え、社会的対策の認識を深めることができると考えた。

3 研究の目的

科目保健「労働と健康」の授業において、多様な視点から考える対話的な活動を取り入れた授業を行うことで、「労働と健康」に係る社会的対策の認識を深めることができるかを明らかにする。

4 研究の仮説

高等学校入学年次の次の年次の科目保健の単元「労働と健康」において、多様な視点から考える対話的な活動を取り入れた授業を行うことで、「労働と健康」に係る社会的対策の認識を深めることができるであろう。

5 研究の方法

- (1) 研究を進めるにあたって、理論研究を行い、仮説を設定する。
- (2) 理論研究を基に、指導と評価の計画を立て、授業を実践する。
- (3) 理論研究と仮説検証の結果を基に、研究のまとめを行う。

第2章 理論の研究

1 高等学校「科目保健」について

(1) 思考力、判断力、表現力等の育成

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』では、思考力、判断力、表現力等に関する資質・能力の育成についての目標として、「健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。」（文部科学省 2019 p.137）と示されている。さらに、この目標については、「健康に関わる事象や健康情報などから自他や社会の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考したり、様々な解決方法の中から適切な方法を選択するなどの判断をしたりするとともに、それらを他者に表現することができるようにすることを目指したものである。」（文部科学省 2019 p.198）と示されている。

また、思考力、判断力、表現力等の資質・能力の育成をする際の学習の展開の基本的な方向としては、「個人及び社会生活における健康・安全に関する内容について科学的に思考・判断し、総合的に捉えるとともに、それらを、筋道を立てて他者に表現できるようにすること」（文部科学省 2019 p.19）が求められている。

このことから、高等学校の科目保健の授業では、生涯を通じて心身の健康を保持増進するために、多様化する現代社会の健康・安全の問題に適切に対処するための思考力、判断力、表現力等に関する資質・能力の育成は重要であると考えられる。

(2) 高等学校「科目保健」における授業の現状と課題

ア 日本学校保健会は、高等学校の科目保健の授業の現状について、「思考・判断・表現等を促す学習活動を取り入れた授業は十分な実施状況にはない」と指摘している（日本学校保健会 2022）。また、保健教育推進委員会報告書において、令和3年に高校3年生を対象に実施した全国調査では、高校1年生と高校2年生の時の保健の授業で「考えたり工夫したりできた」と回答した生徒は高校1年時で63%、高校2年時で66%にとどまっているとしている（日本学校保健会 2022）。これらのことから、保健の授業では、生徒が健康課題を発見し、解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現する学習活動を取り入れるなど、生徒の「思考力、判断力、表現力等」の育成を重視した学習活動を積極的に取り入れることが重要であり、そのための指導方法の工夫が必要である。

イ 「平成27年度高等学校学習指導要領実施状況調査」では、高等学校の学習指導要領の検証のため、学習指導要領の改善事項を中心に、各教科等の目標や内容に照らした生徒の学習の実現状況について、生徒及び教師を対象に調査を実施した。図1、図2、図3は本調査における「教師質問紙調査」において教師が「生徒が興味・関心を持ちにくい」と回答した割合を、内容のまとまり毎に降順で示したものである。

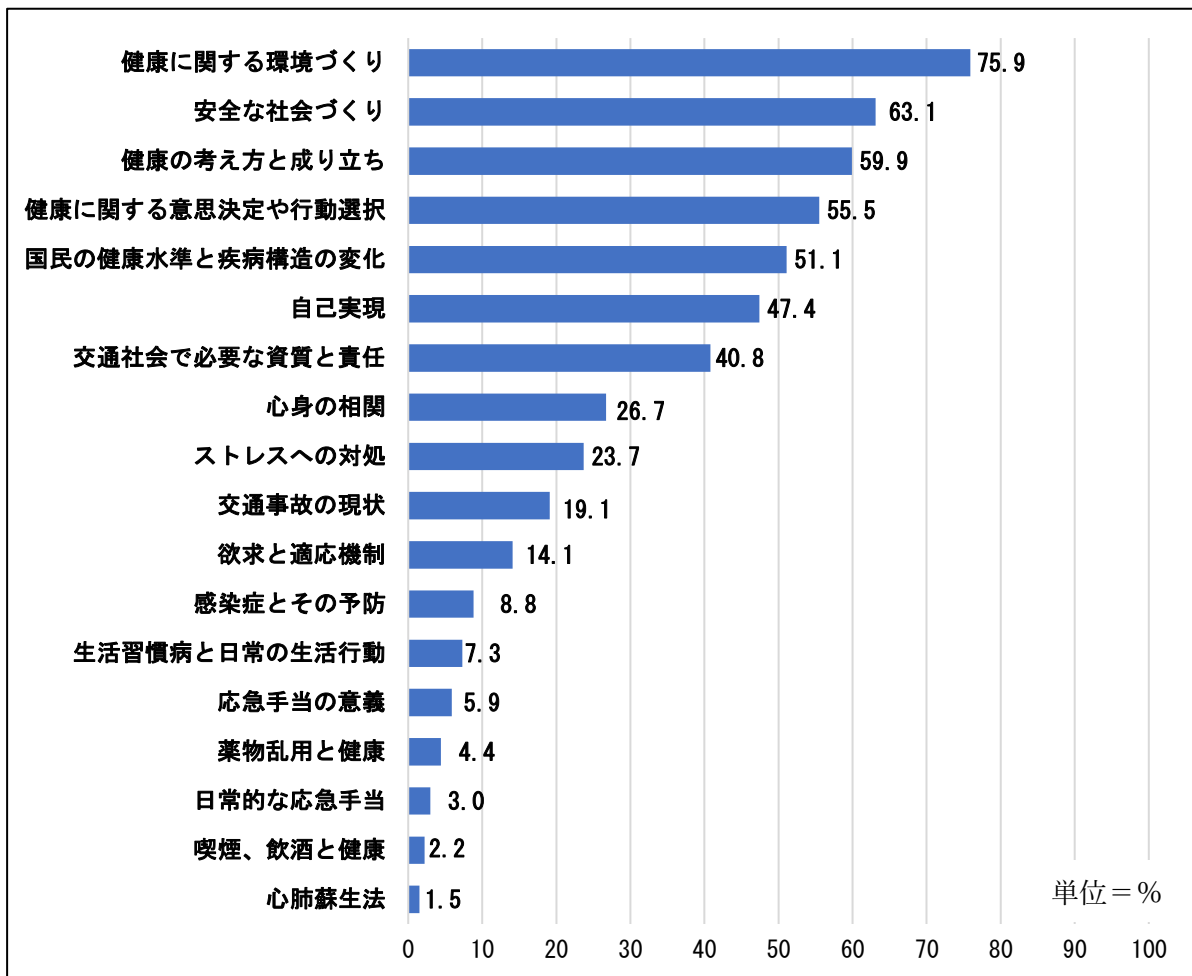


図1 教師が「生徒が興味・関心を持ちにくい」と回答した割合（現代社会と健康）

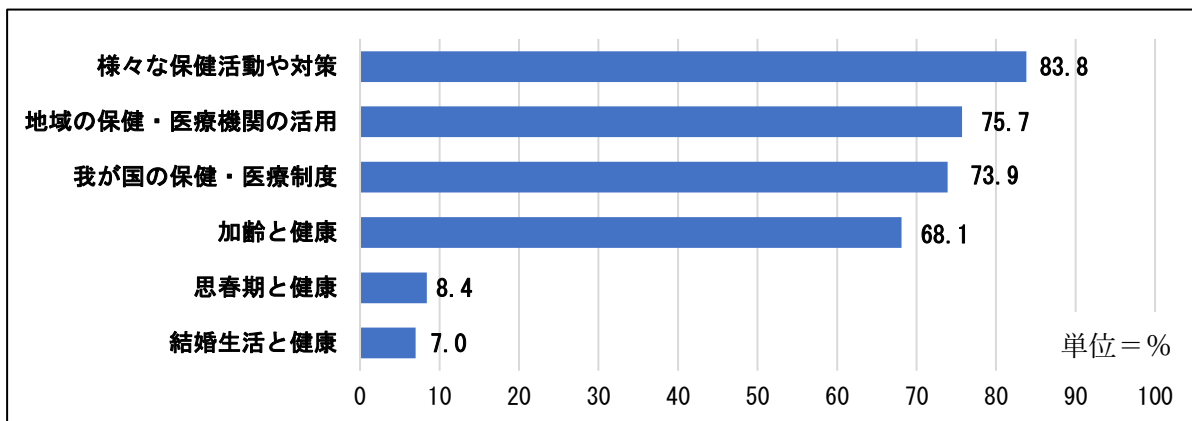


図2 教師が「生徒が興味・関心を持ちにくい」と回答した割合（生涯を通じる健康）

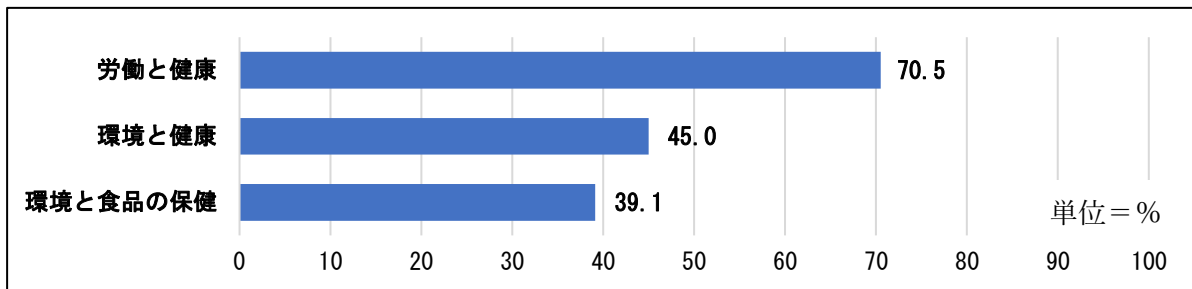


図3 教師が「生徒が興味・関心を持ちにくい」と回答した割合（社会生活と健康）

図1、図2、図3を見ると、内容毎に大きな差が見られた。「心肺蘇生法」や「喫煙、飲酒と健康」、「結婚生活と健康」や「思春期と健康」などは興味・関心を持ちやすいことが分かる。一方で、「健康に関する環境づくり」や「様々な保健活動や対策」などの学習内容については、興味・関心を持ちにくいことが分かり、今回扱う「労働と健康」においても、70.5%と高い数値になっている。このことから、生徒が「労働と健康」の学習内容に興味・関心を持って学習に取り組むことができるよう教材の工夫が必要であると考えられる。

また、図4は、「生徒質問紙調査」において『労働と健康』の、労働災害の発生要因や働く人の健康の保持増進の内容について、自分の考えを整理し、まとめることができましたか」の質問への回答割合を示したものである（国立教育政策研究所 2015）。

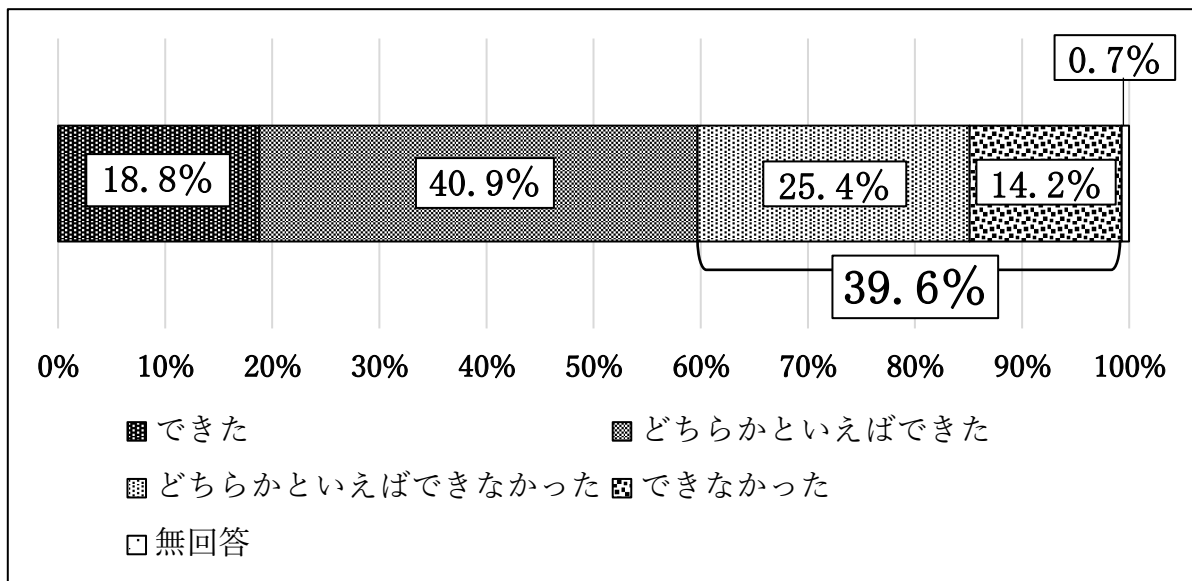


図4 『労働と健康』の、労働災害の発生要因や働く人の健康の保持増進の内容について、自分の考えを整理し、まとめることができましたか」の質問への回答割合

図4において、『労働と健康』の、労働災害の発生要因や働く人の健康の保持増進の内容について、自分の考えを整理し、まとめることができましたか」の質問への回答割合を見ると、「できなかった」と回答した割合と「どちらかといえばできなかった」と回答した割合の合計が39.6%となっている（国立教育政策研究所 2015）。このことから、「労働と健康」の内容について、生徒が自分の考えを整理し、まとめることができるよう手立てを講じる必要があると考える。

2 本校の実態と筆者の課題について

勤務校においては、令和4年度より神奈川県教育委員会より「授業力向上推進重点校」の指定を受け、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた組織的な授業改善に取り組んでいる。昨年度は「対話的な学び」に重点を置いた授業改善を行った。

本校生徒は自分の考えを持ちながらも、それを他者に伝えることに苦手意識のある生徒が多いと感じる。事前に行った実態把握アンケートの「保健の授業において、ペアワークやグループワーク、発表活動など、他者の考えを知る活動は有意義でしたか」の質問において、「発言をするのが苦手」や「発表をするのが好きではない」などの回答があった。他者の考えに触れることは、新たな視点を持つことや、自分の考えを深めるために重要であることから、ICTを活用するなどして、自己の考えを表現することに苦手意識のある生徒が取り組みやすい手立てを講じる必要があると考える。

筆者の授業では、個人の健康・安全に関する課題を見付け、他者との対話を通して解決方法を考え、それらを表現する活動を中心に行ったが、一方で、社会生活における健康・安全に関する内容は、社会の課題や対策について知識中心の一面的な指導になってしまっていた。特に「労働と健康」の内容では、『解説』において、「働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことを理解できるようにする」(文部科学省 2019 p.209)と示されているように、健康・安全に関する内容を総合的に捉えることを目指しているにもかかわらず、個人の健康と社会的対策を結び付けて考え、働く人の健康・安全のために社会的対策が行われていることを十分に認識させることができていなかった。

3 「労働と健康」に係る社会的対策について

『解説』の「労働と健康」に係る知識と思考力、判断力、表現力等の内容を表1に示した。

表1 「労働と健康」に係る記載内容

| 知識 |
|---|
| <p>㉞ 労働災害と健康</p> <p>労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたことを理解できるようにする。また、労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることを理解できるようにする。その際、仕事のストレスによる精神疾患が含まれることにも触れるようにする。</p> |
| <p>㉟ 働く人の健康の保持増進</p> <p>働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことを理解できるようにする。その際、ストレスに対する気付きの援助、リラクゼーションの指導など、メンタルヘルスケアが重要視されていることにも触れるようにする。</p> <p>そのためには、働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることなどで健康の保持増進を図っていくことが重要であることを理解できるようにする。</p> <p>また、「労働と健康」の内容について法律等を取り扱う際には、個々の名称よりも、こうした法律等が制定された背景や趣旨を中心に理解できるようにするとともに、ストレスチェック制度などの予防対策の重要性に触れるようにする。</p> |

思考力、判断力、表現力等

〈例示〉

- ・労働災害と健康について、習得した知識を基に、労働災害の防止に向けて、個人の取組と社会的対策を整理すること。
- ・働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用すること。

思考力、判断力、表現力等の例示では、労働災害の防止のための取組や対策を、「個人の取組」と「社会的対策」に整理することが示されていることから、知識の記載内容を基に、本研究における社会的対策を整理し、「労働と健康」に係る社会的対策を、「労働災害を防止するための作業形態や作業環境の改善、働く人の健康の保持増進のための職場の健康管理や安全管理、政策や制度、人間関係を含む社会環境への対策」と定義した。

4 認識を深めることについて

今村は、授業内における子どもの認識の変化・変容について、量的な変化・変容は、授業前には全く知らなかったことを知って、知識・認識の量が増えた状態であり、質的な変化・変容は、観念的、感覚的、部分的に知っている内容が、具体的、論理的、全体的に知ることに変化・変容し、授業前よりもさらにより認識が深まった状態であるとしている。これを踏まえて保健の授業では、子どもたちに思考させ、深い学びに誘い、具体的、論理的、全体的な説明ができるような子どもを育てるべきであると述べている（今村 2017 pp.40-41）。

このことから、認識を深めるためには、知識を習得し、課題解決などの学習を通して思考、判断し、具体的、論理的、全体的に表現できるようにすることが重要であると考えられる。

そこで、本研究における認識の深まった状態とは、「知識を習得し、具体的や論理的、または全体的に説明することができるなど、思考力、判断力、表現力等を、より働かせることができた状態」とした。

5 多様な視点から考える対話的な活動について

藤原は、保健の授業づくりについて、多様な健康の捉え方が存在するがゆえに、「保健の授業において、どれか一方の健康観を強調することは避けるべきである。価値観、考え方、捉え方のような生き方に直結するものを一面的に捉え、教育することの危険性については、道徳教育にも示されている」とし、「目指すべきは、多様な視点で健康について主体的に生徒が自ら考え、将来、自らの健康観を確立できるようになる授業であろう」と述べており、健康を一面的に捉えることにはリスクがあることから、多様な視点で考えることの重要性を述べている（藤原 2023）。

このことから、同じ事柄でも立場によって見え方が違ってくるため、一方向からだけでなく、違った立場からも考えることが大切であり、他者の考えに触れることも重要であると考えられる。

そこで本研究では、「労働者の立場」、「健康・安全を管理する立場」、また、「法律や制度」といった側面から働く人の健康・安全に係る課題を見付け、解決方法を考える学習活動を行い、さらに、多様な価値観を持つ他者の考えに触れることができるように、ペアやグループでの対話的な活動を取り入れることとした。

6 保健の授業評価について

白石らは、生徒にとって魅力のある授業を創り出すには、日々行われている授業の評価が必要であると述べ、生徒の保健授業に対する印象についてのアンケート調査をもとに、「保健の授業評価票」(表2)を作成した。(白石他 1998 p.20)

本研究では、仮説の検証には直接関係ないが、生徒が授業をどのように評価したかを把握することは検証授業を振り返る上で重要であると考え、白石らの「保健の授業評価票」(表2)を基に、本研究のテーマに合わせて内容を一部修正して、「生徒による授業評価の項目」(表3)を作成し、検証を行うこととした。

表2 保健の授業評価票

| |
|---|
| 【質問項目】 |
| (1) 授業は興味深かったですか。 |
| 1、大変興味深かった 2、興味深かった 3、普通 4、興味深くなかった 5、全く興味深くなかった |
| (2) 授業の中で新しい発見はありましたか。 |
| 1、かなりあった 2、あった 3、普通 4、なかった 5、全くなかった |
| (3) 授業の中で多角的な考え方ができましたか。 |
| 1、かなりできた 2、できた 3、普通 4、できなかった 5、全くできなかった |
| (4) 生活で役に立つような内容がありましたか。 |
| 1、かなりあった 2、あった 3、普通 4、なかった 5、全くなかった |

(白石他 1998 p.20)

表3 生徒による授業評価の項目

| |
|--|
| 【質問項目】 |
| (1) 授業は興味深かったですか。 |
| 4：大変興味深かった 3：興味深かった 2：興味深くなかった 1：全く興味深くなかった |
| (2) 授業の中で新しい発見はありましたか。 |
| 4：かなりあった 3：あった 2：なかった 1：全くなかった |
| (3) 授業の中で <u>様々な視点から考えることが</u> できましたか。 |
| 4：かなりできた 3：できた 2：できなかった 1：全くできなかった |
| (4) 生活で役に立つような内容がありましたか。 |
| 4：かなりあった 3：あった 2：なかった 1：全くなかった |

修正点は、中立的尺度「3、普通」に回答が集中しないよう「3、普通」を除き、4件法とした。また、表3の下線部を研究のテーマに合わせて加筆・修正した。

第3章 検証授業

1 検証授業

(1) 授業期間

令和5年9月13日（水）～10月13日（金） 4時間扱い（各50分）

(2) 場所

神奈川県立秦野曾屋高等学校 教室

(3) 授業者

神奈川県立秦野曾屋高等学校 教諭 富田 壮（筆者）

(4) 対象者

第2学年 2クラス 計73名

(5) 単元名

科目保健 (3) 生涯を通じる健康 (イ) 労働と健康

2 検証方法

(1) 主なデータの収集方法

ア アンケート調査

(ア) 実態把握アンケート

※生徒の実態を把握するために、予備調査として実施

(イ) 事前アンケート

(ウ) 事後アンケート

イ ワークシート

ウ 毎時間の授業の振り返りアンケート

エ 授業の様子を記録した映像

(2) 仮説と検証の視点と方法

【研究の仮説】

高等学校入学年次の次の年次の科目保健の単元「労働と健康」において、多様な視点から考える対話的な活動を取り入れた授業を行うことで、「労働と健康」に係る社会的対策の認識を深めることができるであろう。

【検証の視点、具体的な視点】

ア 生徒は保健の授業をどのように捉えたか

| 具体的な視点 | 手がかり | 質問内容等 |
|--------------------|---------------------|--|
| 生徒は保健の授業をどのように捉えたか | 授業アンケート (毎時間・事後) | (ア)「授業は、興味深かったですか。」(4件法) (イ)「授業の中で新しい発見がありましたか。」(4件法) (ウ)「授業の中で様々な視点から考えることができましたか。」(4件法) (エ)「生活に役立つような内容がありましたか。」(4件法) |
| | 授業アンケート (毎時間) | (オ)「この授業の感想を自由に書いてください。」(自由記述) |
| | 事後アンケート | (カ)「4時間の授業の感想を自由に書いてください。」(自由記述) |

イ 多様な視点から考えることができたか

| 具体的な視点 | 手がかり | 内容及び方法等 |
|---|-------------------|--|
| 働く人の健康を考える視点を増やすことができたか | 事後アンケート | (ア)『働く人の立場』から考える学習活動を通して、働く人の健康を考える視点を増やすことができましたか。(4件法) (イ)『健康・安全を管理する立場』から考える学習活動を通して、働く人の健康を考える視点を増やすことができましたか。(4件法) (ウ)『法律や制度』から考える学習活動を通して、働く人の健康を考える視点を増やすことができましたか。(4件法) |
| 多様な視点から考える活動が労働災害防止のための対策を考える(理解する)上で役に立ったか | 授業アンケート (2時間目) | (ア)『働く人の立場』から考える学習活動は、労働災害防止のための対策を考える上で役に立ちましたか。(4件法) 『どちらかというと役に立たなかった』、『役に立たなかった』と回答した人は理由を書いてください(自由記述) (イ)『働く人の健康・安全を管理する立場』から考える学習活動は、労働災害防止のための対策を考える上で役に立ちましたか。(4件法) 『どちらかというと役に立たなかった』、『役に立たなかった』と回答した人は理由を書いてください(自由記述) |

| | | |
|----------------------------------|-------------------|--|
| | 授業アンケート (3時間目) | (ウ)「法律や制度をもとに働く人の健康や安全を考える学習活動は、労働災害を理解する上で役に立ちましたか。」(4件法) 『どちらかという役に立たなかった』、『役に立たなかった』と回答した人は理由を書いてください」(自由記述) |
| ペアワークやグループワークは働く人の健康を考える上で役に立ったか | 事後アンケート | (ア)「ペアワークやグループワークは働く人の健康を考える上で役に立ちましたか。」(4件法) |
| | 授業アンケート (毎時間) | (イ)「この授業の感想を自由に書いて下さい。」(自由記述) |

ウ 社会的対策の認識が深まったか

| 具体的な視点 | 手がかり | 内容及び方法等 |
|----------------------------|-------------------------------|--|
| 知識を習得できたか | 事前・事後アンケート | (ア)「労働災害(働くことが原因で起こるけがや病気)の防止や、働く人の健康の保持増進のための、個人の取組を知っていますか。」(4件法) (イ)「労働災害(働くことが原因で起こるけがや病気)の防止や、働く人の健康の保持増進のための、個人の取組について知っていることを具体的に書いてください。」(自由記述) (ウ)「労働災害(働くことが原因で起こるけがや病気)の防止や、働く人の健康の保持増進のための、社会的対策を知っていますか。」(4件法) (エ)「労働災害(働くことが原因で起こるけがや病気)の防止や、働く人の健康の保持増進のための、社会的対策について知っていることを具体的に書いてください。」(自由記述) |
| 思考力、判断力、表現力等をより働かせることができたか | 事前・事後アンケート ワークシート (毎時間) | (ア)「健康に生き生きと働くためにはどうしたらよいと考えますか。」(自由記述) |

3 単元の目標・評価規準・指導と評価の計画概要

(1) 単元の目標

- ア 労働災害と健康や働く人の健康の保持増進について、理解することができるようにする。
- イ 労働と健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようにする。
- ウ 労働災害と健康、働く人の健康の保持増進について、自他の健康の保持増進や回復、それを支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。

(2) 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|---|
| <p>① 労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変わってきたこと、また、労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>② 働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つこと、労働と健康に関する法律等が制定された背景や趣旨について、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>③ 働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることなどで健康の保持増進を図っていくことが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> | <p>① 労働災害と健康について、情報を整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見するとともに、個人の取組と社会的対策を整理して、労働災害を防止するための方策を選択している。</p> <p>② 働く人の健康の保持増進のための職場の取組について、課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ワークシートに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p> | <p>① 労働災害と健康・働く人の健康の保持増進について、課題の解決に向けての学習に主体的に取り組もうとしている。</p> |

(3) 指導と評価の計画

| | 主な学習活動 | 知 | 思 | 態 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|--------------|
| 1 | 1 オリエンテーション 2 「働くことの意義」について考える。 3 単元を通じた発問「健康に生き生きと働くためにはどうしたらよいか。」について考える。 4 本時の学習内容と目標を確認する。 5 働くことと健康のかかわりについて考える。 6 労働災害の事例について、発生の原因を考える。 7 まとめ・授業の振り返り | | | | |
| 2 | 1 前時までの学習を振り返る。 2 本時の学習内容と目標を確認する。 3 労働災害の種類と発生要因についての説明を聞く。 4 労働災害の事例について、「労働者の立場」と「健康・安全を管理する立場」それぞれの立場から対策を考える。 5 働くことが原因で起きる精神障害の増加についての原因を見つけ「健康・安全を管理する立場」から対策を考える。 6 単元を通じた発問「健康に生き生きと働くためにはどうしたらよいか。」について考える。 7 まとめ・授業の振り返り | ① | ① | | 観察 ワークシート |
| 3 | 1 前時までの学習を振り返る。 2 本時の学習内容と目標を確認する。 3 事例について、「法律や制度」の側面から問題点を考える。 4 トータルヘルスプロモーションプランについての説明を聞く。 5 事例について、健康課題を見付け、改善のための健康づくりプランを考え、プレゼンテーションのためのスライドを作成する。 6 単元を通じた発問「健康に生き生きと働くためにはどうしたらよいか。」について考える。 7 まとめ・授業の振り返り | ② | ② | | 観察 ワークシート |
| 4 | 1 前時までの学習を振り返る。 2 本時の学習内容と目標を確認する。 3 健康づくりプランの発表（プレゼンテーション）を行う。 4 仕事と生活の調和についての説明を聞く。 5 単元のまとめ 6 単元を通じた発問「健康に生き生きと働くためにはどうしたらよいか。」について考える。 7 授業の振り返り・事後アンケート | ③ | | ① | 観察 ワークシート |

※「主体的に学習に取り組む態度」は単元全体を通して評価することとする。

4 学習指導の工夫

(1) 教材の工夫

本研究では、労働災害の防止や働く人の健康の保持増進に興味・関心を持ち、健康課題を捉えやすく、課題の解決方法を具体的に考えることができるように実際の事例や、筆者が作成した架空の事例、現代社会における課題に関する資料を教材とし、多様な視点から考える対話的な活動を取り入れた授業を行った。

ア 1時間目の授業

1時間目の授業の概要を表4に示した。

表4 1時間目の授業の概要

| | |
|------|--|
| 学習内容 | 働くことと健康のかかわり |
| ねらい | 働くことと健康のかかわりに気付く。 |
| 発問 | 「あなたが仕事や職場に求めることは何ですか」 |
| 学習形態 | グループ（3～4人） |
| 学習活動 | 発問に対する個人の考えをGoogle Jamboardでクラス全体に共有する。その内容を基に働くことと健康の関わりについてグループで考える。 |

1時間目は、働くことと健康のかかわりに気付くことをねらいとした。「仕事や職場に求めること」を個人で考え、Google Jamboardに付箋を貼り、多様な視点に気付くことができるようにクラス全体で共有した。その後、Google Jamboard上で出された項目と健康の関わりを個人で考え、グループ内で発表した。図5は実際に生徒が使用したGoogle Jamboardと生徒が入力している様子である。

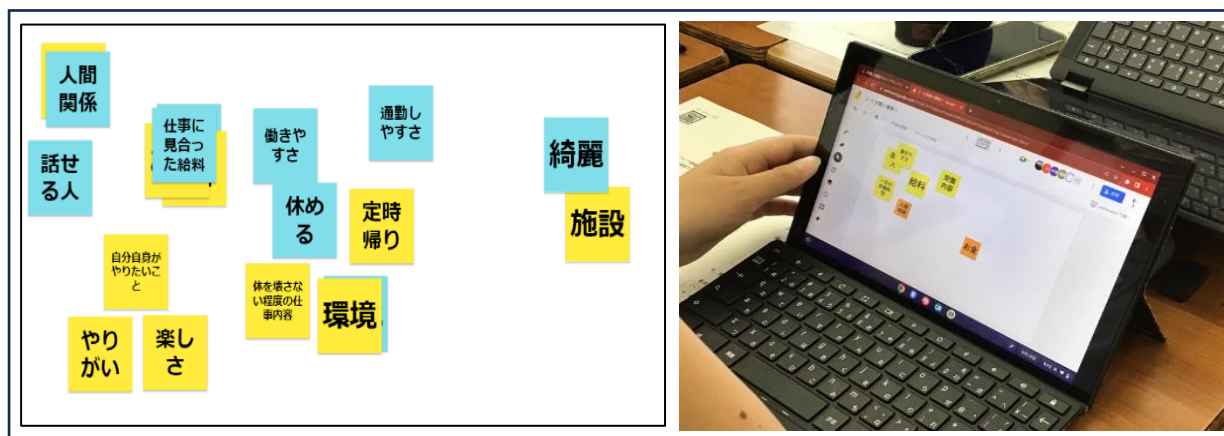


図5 1時間目の「仕事や職場に求めること」についての考えを入力したGoogle Jamboardと生徒の活動の様子

イ 2時間目の授業

2時間目の授業の概要を表5に示した。

表5 2時間目の授業の概要

| | |
|--------|--|
| 学習内容 | 労働災害と精神疾患の防止 |
| ねらい | 労働災害と精神疾患の原因を見付け、課題の解決方法を考える。 |
| 発問 | 「労働災害と精神疾患を防止するためにはどうしたらよいですか」 |
| 事例の概要 | 建設会社での作業中にベルトコンベアに巻き込まれ、片腕を失ってしまった実際に起きた労働災害 |
| 学習形態 | ペア |
| 設定した立場 | ・「労働者の立場」 ・「健康・安全を管理する立場」 |
| 学習活動 | 事例について設定した立場を基に、労働災害の原因を見付け、防止するための対策をペアで考え、その後、他のペアと共有する。 |

2時間目は、図6の事例「ベルトコンベアに巻き込まれ片腕を失った実際の労働災害」について、労働災害の原因を見付け、課題の解決方法を考えることをねらいとした。事故に関する動画を視聴し、事故の概要を説明した後、「労働者の立場」と「健康・安全を管理する立場」から、事故の問題点と原因を見付け、防止するための対策をペアで考える学習活動を行った。

「ベルトコンベアに巻き込まれ片腕を失った実際の労働災害」

△△さんは「勤務先の建設会社で工作中、ベルトコンベアが回る機械についた「ゴミ」を取ろうとした。その瞬間、衣服が絡まり、腕がグイッと機械に引っ張られ巻き込まれた。普通なら失神しそうなものだが、△△さんは無我夢中で事務所まで走った。助けを呼んだ後のことは覚えていない。搬送先の病院で意識を取り戻した時、医師から「すぐに助けを呼ばなければ、失血死するところだった。」「左腕だったら心臓が近いので命があったか分からなかった。」と告げられた。本来、ベルトコンベアに直接触れる際は、機械を停止する決まりだが、△△さんは、なぜ自分が機械を停止せずに回転するベルトコンベアに手を差し込んだのか、今でも理由がはっきりわからない。

図6 1時間目と2時間目に使用した、実際に起きた労働災害の事例

同じく2時間目は、図7の「労働災害による死亡者数、死傷者数の推移」のグラフと、図8の「精神障害の請求、決定及び支給決定件数の推移」のグラフを提示し、精神疾患の原因を見付け、課題の解決方法を考えることをねらいとした。「労働災害による死亡者数、死傷者数の推移」のグラフから死亡者数が減少していることと、「精神障害の請求、決定及び支給決定件数の推移」のグラフから精神障害が増加していることを読み取り、「健康・安全を管理する立場」から原因を見付け、対策をペアで考える学習活動を行った。

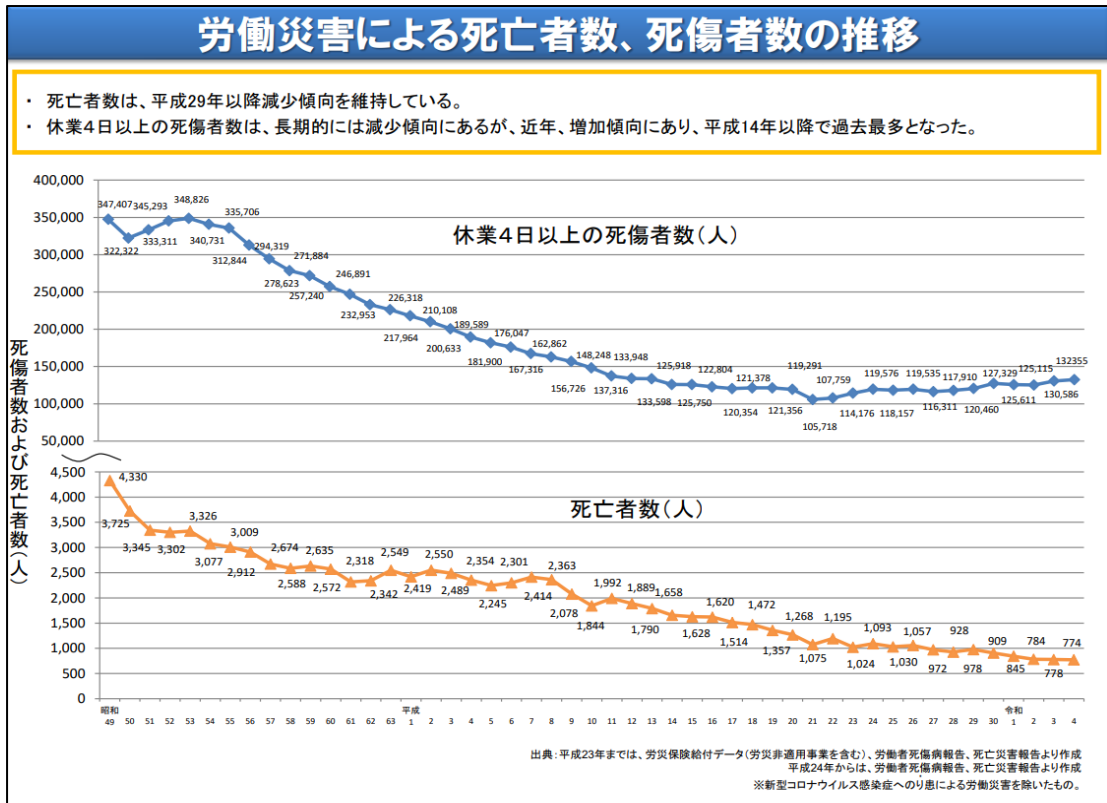


図7 「労働災害による死亡者数、死傷者数の推移」のグラフ

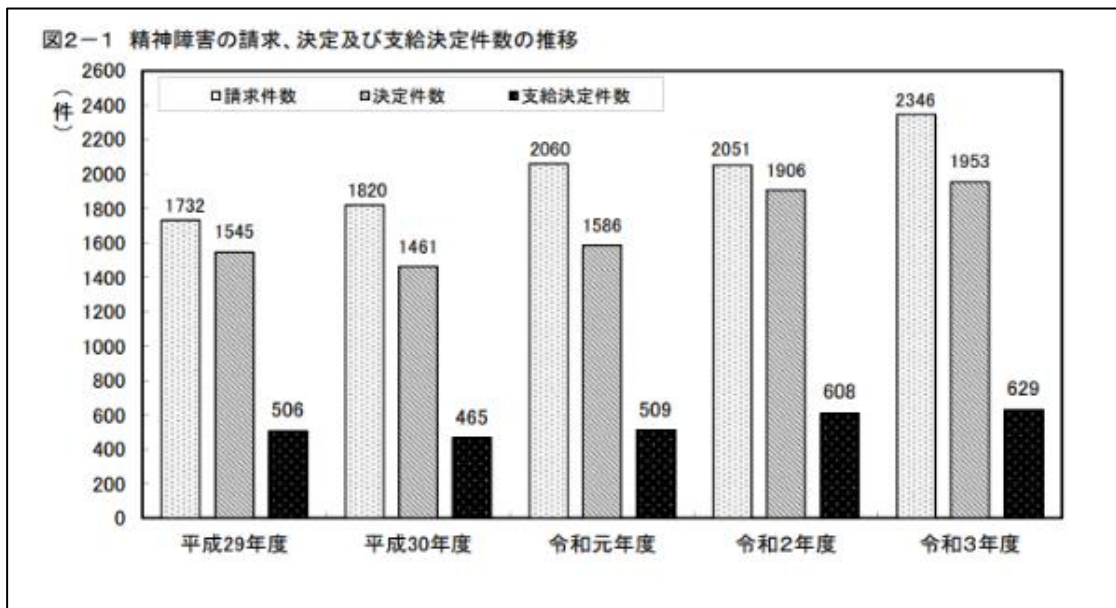


図8 「精神障害の請求、決定及び支給決定件数の推移」のグラフ

- ウ 3時間目、4時間目の授業
3時間目、4時間目の授業の概要を表6に示した。

表6 3時間目、4時間目の授業の概要

| | |
|--------|--|
| 学習内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 過重労働の防止 ・ 働く人の健康の保持増進のための取組 ・ 余暇の活用と生活の質の向上 |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・ 働く人の健康・安全には法律や制度が関わっていることについて理解する。 ・ 働く人の健康の保持増進は心身両面にわたる対策で成り立つことを理解し、課題の解決方法を考える。 |
| 発問 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「働く人の健康・安全を守るために必要なことはなんですか」 ・ 「働く人の健康を保持増進するためにはどうしたらよいですか」 |
| 事例の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 残業時間や有休休暇の取得など勤務形態に課題がある架空の会社について ・ 通勤方法や業務内容、職場環境など、個人の生活習慣に課題がある架空の会社について |
| 学習形態 | ペア、グループ（6～8人）、クラス全体 |
| 設定した立場 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「法律や制度」 ・ これまで示した全ての立場 |
| 学習活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 事例について、設定した立場を基に、過重労働の原因や改善点を、法律や制度と結び付けてペアで考える。 ・ 事例について、設定した立場を基に、課題を見付け、健康の保持増進のための取組をペアでGoogle スライドを用いてプレゼンテーション資料にまとめ、グループで共有し、その後、グループの代表者がクラス全体に発表を行う。 |

3時間目前半は、図9の「過重労働に関する架空の事例」について、働く人の健康・安全には法律や制度が関わっていることについて理解することをねらいとした。事例に関係している法律や制度を調べ、それを基に、「法律や制度」の側面から勤務状況の問題点を見付ける学習活動を行った。

〇〇社では、ここ数年で体調不良の社員が増加している事が問題になっています。あなたは、この問題を解決するために派遣されました。状況を把握するために、社員Aさんと社長に聞き取りをしました。

社員Aさんの話

私は8時30分に出社し、9時から仕事を開始します。12時から休憩に入りますが、お昼の時間に電話や来客の対応を当番制で行っているため、週に1回は自分の席から離れることができません。

午後は13時から仕事を再開します。定時は18時ですが、仕事が終わらないため残業をする日も多く22時まで残業した日もあります。8月は特に忙しく、1か月で48時間残業をしました。

有給休暇は一年間で10日ありますが、去年は4日しか取ることができませんでした。今年も、もう10月なのにまだ1日も取れていません。

図9 3時間目に使用した、過重労働に関する架空の事例

3時間目後半は、図10の「社員の生活習慣に課題のある架空の会社の事例」について、働く人の健康の保持増進は心身両面にわたる対策で成り立つことを理解し、課題の解決方法を考えることをねらいとした。これまで考えてきた立場や側面を生かして、多様な視点から社員の健康課題を見付け、原因と解決のための会社の取組をペアで考える学習活動を行った。

〇〇社では、ここ数年で体調不良の社員が増加している事が問題になっています。あなたは、この問題を解決するために派遣されました。状況を把握するために、社員 Aさんと社長に聞き取りをしました。

社長の話

うちの会社は一人暮らしをしている社員が多くいます。そのためか、朝食は職場でコンビニの菓子パンを食べている社員をよく見かけます。お昼ご飯は、会社の周りに飲食店が多くあり、みんな好きな物を食べているようです。午後は眠そうにしている社員が多く、作業の効率が下がって困っています。

通勤に関しては、多くの社員が車で通勤しています。また、仕事はほとんどがデスクワークのため仕事中に体を動かすことはほとんどありません。学生時代に運動をやっていた社員が多くいますが、現在はほとんど運動をしていないようです。

これらの影響から、入社後に体重が増えた肥満傾向の社員が多いようですが、みんなまだ若いからか、健康状態や生活習慣に無頓着で困っています。

図 10 3時間目、4時間目に使用した社員の生活習慣に課題のある架空の会社の事例

4時間目は、考えた内容をGoogle スライドを用いてプレゼンテーション資料にまとめ、グループ内で発表し、その後、グループの代表がクラス全体に発表を行った。発表の際は、発表ペアのプレゼンテーション資料を個人の端末で見ながら聞いた。図11は生徒が実際に作成したプレゼンテーション資料である。

| | |
|--|--|
| <p>NO.2 〇〇社 健康づくりプラン</p> <p>デスクワークによる運動不足 → 会社に運動器具を設ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ストレス発散 ● 気分転換によるパフォーマンスの向上 ● 作業員同士で交流ができる ● 企業に対する満足度向上につながり業績アップが期待できる | <p>NO.12 ミサミサ社 健康づくりプラン</p> <p>若い人たちが自分の健康状態や、生活習慣に無頓着。 →</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間ドックをうけさせる。 ・医療にかかる費用を免除する。 <p>健康診断ではなく、人間ドックの方が検査範囲が広く、詳しい検査を行うことができるため、もっと自分の健康状態について知ることができ、医療にかかる費用を免除することで、積極的に健康状態の改善に力を入れられるようになる。</p> |
|--|--|

図 11 生徒が実際に作成したプレゼンテーション資料

(2) ワークシートの工夫

労働災害の発生要因や働く人の健康の保持増進の内容について、自分の考えを整理し、まとめることができるようにワークシートを工夫した。図12は実際に授業で使用したワークシートの一部である。

| <問題点> | | <原因として考えられること> | |
|-------|-----------------|----------------|--|
| ① | △△さんが機械を停止しなかった | . | |
| ② | ①問題点を見付ける | ②事故が起きた原因を考える | |

↓

| △△さんの立場（個人の取組） | | 健康・安全を管理する立場（社会的対策） | |
|----------------|---------------------------|---------------------------------|--|
| ① | ③「労働者の立場」から事故を防ぐための取組を考える | ④「健康・安全を管理する立場」から事故を防ぐための対策を考える | |
| ② | | | |

○他のペアの発表を聞いて、新たに気づけたことや参考になったことを記入しよう。

⑤他者の考えに触れ、自分の考えを整理する

図12 授業で使用したワークシートの一部

図12の①～⑤は考えを整理し、まとめるための手順である。①、②で問題点や原因を焦点化させ、③、④で考える際の立場を明確にし、課題に取り組むことができるようワークシートの記述欄を示した。⑤は、他者の考えを踏まえて、もう一度自分の考えを整理するための記述欄とした。図13は、実際の生徒のワークシートの一部である。

| <問題点> | | <原因として考えられること> | |
|-------|-----------------|--|--|
| ① | △△さんが機械を停止しなかった | <ul style="list-style-type: none"> ・ベルトコンベアを止めると、仕事は中断されるから。 ・仕事に付いたスピードが速いから。 ・スピードが速いから、止まらなから。 | |
| ② | 非常停止装置が機能してない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・会社でつかっているものにその機能が壊れている。 ・壊れている。 ・もし自動で壊れた場合、おそれる人がいない。 | |

↓

| △△さんの立場（個人の取組） | | 健康・安全を管理する立場（社会的対策） | |
|----------------|---|---|--|
| ① | <ul style="list-style-type: none"> ・ちゃんとルールを守って仕事をする。 ・安全確認をおこなう。 ・仕事をする前にスピードを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・仕事をするまえにルールの説明を全員でやる。 ・人は速い、同じにも人がいる状態にしておく。 ・仕事をやる時は、安全を確認する。 | |
| ② | <ul style="list-style-type: none"> ・非常停止装置があるかを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・個人の安全が守られるものを。 ・自動にする。 ・同じの人がおしてやるように環境が。 | |

○他のペアの発表を聞いて、新たに気づけたことや参考になったことを記入しよう。

業者の人に頼んで定期検診をする。
とくじをする日を確認する日を決める。

図13 実際の生徒のワークシートの一部

5 授業の実際

【本時の展開】(1 / 4 時)

本時の目標

- 働くことと健康のかかわりについて説明することができるようにする。
- 労働災害と健康の学習で、課題を発見することができるようにする。
- 労働災害と健康・働く人の健康の保持増進について、課題の解決に向けての学習に主体的に取り組むことができるようにする。

| | 生徒の学習内容・活動 | 教師の指導・手立てと評価 |
|-----|--|---|
| はじめ | 1 オリエンテーション ・労働と健康の学習内容と単元を通じた発問について説明を聞く。 2 働くことの意義について考える。 ・「働くことの目的」をワークシートに記入する。 ・「働くことのイメージ」について個人の端末で回答する。 3 本時の学習内容と目標を確認する。 | ○単元の学習内容について説明をする。 ○全国調査の結果を示し、同じ高校生がどのように考えているかを伝える。 ○働くことの意義について説明する。 ○人生の多くの時間は労働をして生活を送ることを実感できるようにする。 ○本時の学習内容と目標を提示し、学習の見通しを持つことができるようにする。 |
| なか | 4 働くことと健康のつながりについて考える <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【発問1】あなたが、仕事や職場に求めることはなんですか？</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <u>予想される生徒の考え</u> 給料、場所、人間関係、休み、勤務時間 </div> <グループワーク> ・Google Jamboard に各自で付箋を貼る。 ・グループで出た項目を整理し、各自で重要視する項目1位～5位をワークシートに記入する。 ・項目と健康との関係を考え、グループ内で発表する。 5 労働災害の事例について、発生の原因を考える。 | ○グランドルールを示す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ①積極的に活動に参加する。 ②相手を批判しない。 ③他者の情報は授業終了後、口外しない。 </div> ○いくつか例を示し、できるだけ多く挙げるよう促す。また、他のグループを参考にしても良いことを伝える。 ○働く上での様々なことが健康に影響するこ |
| まとめ | 6 まとめ・授業の振り返り ・本時の授業を受けて、単元を通じた発問についての答えを考え、ワークシートに記入する。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【発問2】△△さんが片腕を失う事故が起きてしまった原因は、どこにあったのでしょうか？</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <u>予想される生徒の考え</u> ・本人の不注意 ・決まりを守らなかった ・個人で考えたことをペアで共有する。 ・説明を聞き、他の原因をペアで考える。 </div> ○動画を視聴後、事故の具体的な内容を説明する。 ○事故の原因は、本人の行動以外にも関係していることがあることに気付くよう促す。 |

【授業者としての振り返り】

「仕事や職場に求めること」という発問をすることで、「労働と健康」に興味・関心を持って考えることができたと感じる。また、労働災害の原因について考える活動では、動画や画像を用いたことで、生徒が労働災害の場面をイメージしやすく、効果的であったと感じた。

【研究の視点からの振り返り】

グループワークを通して他者の考えを知ることで、働く上での健康に様々な事がかかわっていることに気付くことができている様子であった。労働災害の原因を考える活動においては、一部の生徒は作業環境や作業形態について考えることができていたが、多くの生徒は労働者自身に原因があると考えていた。

【本時の展開】（2 / 4 時）

本時の目標

- 労働災害が起こる原因について説明することができるようにする。
- 労働災害を防止するために必要なことを考えることができるようにする。

評価

<知識・技能①> 【ワークシート】 【観察】

<思考・判断・表現①> 【ワークシート】

| | 生徒の学習内容・活動 | 教師の指導・手立てと評価 |
|-----|---|---|
| はじめ | 1 前時までの学習を振り返る。 2 本時の学習内容を確認する。 | ○前時の労働災害の内容をもとに学習内容について振り返る。 ○本時の学習内容と学習活動を提示し、学習の見通しを持つことができるようにする。 |
| なか | 3 労働災害の種類とその発生要因についての説明を聞く。 4 労働災害の事例について、「労働者の立場」と「健康・安全を管理する立場」から対策を考える。 （ペアワーク） ・問題点、原因、対策に分けてワークシートに記入し、前後のペア、全体で共有をする。 5 働くことが原因で起きる精神障害の増加についての原因を見つけ「健康・安全を管理する立場」から対策を考える。（ペアワーク） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【発問】 精神障害の増加には、どのような事が影響していますか？ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <u>予想される生徒の考え</u> ・職場の人間関係 ・パワハラ、セクハラ ・残業などの長時間労働 </div> ・問題点、原因、対策をワークシートに記入する。 ・考えた内容を前後のペア、全体で共有する。 | ○事故を防ぐためには、個人の取組と社会的対策の両方が重要であることを説明する。 <思考・判断・表現①> 【ワークシート】 ○資料を示し、労働災害による死亡者数、死傷者数が減少し、働くことが原因の精神障害が増加していることを説明する。 ○端末を用いて、実際に行われている対策等について調べても良いことを伝える。 ○共有した内容をワークシートに記入するよう指示する。 <知識・技能①> 【ワークシート】 【観察】 |
| まとめ | 6 単元を通した発問の回答をワークシートに記入する。 7 まとめ・授業の振り返りを記入する。 | ○本時の授業で学習した内容をもとに考えるよう指示する。 |

【授業者としての振り返り】

生徒は労働災害の原因や対策について、提示された事例を基に具体的な対策について考えられている様子であった。精神障害の増加は、グラフを読み取って原因と対策を考える学習活動だったため、イメージすることが難しく、事例を用いた学習活動に比べ具体的に考えることが難しい様子であった。

【研究の視点からの振り返り】

立場を分けて対策を考えた結果、個人の取組よりも社会的対策についての記載内容が多かった。今回の事例について、個人の取組だけでは労働災害の防止には限界があることを知り、社会的対策の重要性に気付くことができている様子であった。自分の考えを表現することが苦手な生徒が多いが、ペアで考える活動を行ったため、自分の考えを表現しやすく活発に意見交換することができていた。

【本時の展開】（3／4時）

本時の目標

○働く人の健康の保持増進のための職場の取組について説明することができるようにする。

評価

<知識・技能②> 【ワークシート】 【観察】

<思考・判断・表現②> 【ワークシート】 【観察】

| | 生徒の学習内容・活動 | 教師の指導・手立てと評価 |
|-----|---|--|
| はじめ | 1 前時の振り返りをする。 2 本時の学習内容と目標を確認する。 | ○精神障害を含む労働災害を防止するための対策について学習した内容を確認し、実際に行われている対策を紹介する。 ○本時の学習内容と学習活動を提示し、学習の見通しを持つことができるようにする。 |
| なか | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【発問1】働く人の勤務時間や休みはどのように決められていますか？ </div> 3 事例について、「法律・制度」から問題点を考える。 ・架空の会社の事例を読み、労働環境の改善点とその根拠となる内容(法律)を調べ、まとめる。 4 トータルヘルスプロモーションプランについての説明を聞く。 ・社内運動会の映像を見る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【発問2】この会社が社内運動会を行った目的はなんでしょうか？ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <u>予想される生徒の考え</u> ・運動不足解消のため ・気分転換のため ・社内の人間関係を良くするため ・ペアで目的について考え、発表する。 ・職場全体で心と体の両面から総合的に健康づくりを進めることが重要であることを理解する。 </div> 5 事例について、健康課題を見つけ、改善のための健康づくりプランを考え、プレゼンテーション資料を作成する。 | ○労働時間を例に、法律が関わっていることに気付くことができるよう支援する。 ○他にも、様々な法律が働く人の健康に関わっていることを補足する。 <知識・技能②> 【ワークシート】 【観察】 ○労働災害の防止だけでなく、働く人の健康づくりに積極的に取り組む企業が増えていることを伝える。 ○作成する資料の例を示す。 ○実際に企業が行っている取組を参考にしても良いことを伝える。 <思考・判断・表現②> 【ワークシート】 【観察】 ○次回の授業で、プレゼンテーション形式で発表を行うことと、作成した資料を Google Classroom で提出するよう指示する。 |
| まとめ | 6 単元を通した発問の回答をワークシートに記入する。 7 まとめ・授業の振り返りを記入する。 | ○本時で学習した内容をもとに考えるよう指示する。 |

【授業者としての振り返り】

2時間目の振り返りから、具体的に考えることができるよう、法律に関わる内容が分かる事例を提示したことで、生徒は具体的に考えることができている様子であった。また、職場における健康づくりの取組をペアで考える活動では、健康課題を見付け、問題点に対する改善の取組を考える活動の中で、より継続的に行えるような内容を取り入れるなどの対策を考えるなど様々な工夫が見られた。

【研究の視点からの振り返り】

法律や制度の側面から考える学習活動では、現実的に捉えられず、個人の健康と結び付けて考えることが難しい様子であった。健康の保持増進の取組については、これまで事例について考えた立場や側面を生かし、具体的な取組を多様な視点から考えることができている様子であった。

【本時の展開】（4／4時）

本時の目標

- 働く人の健康の保持増進の成り立ちについて理解することができるようにする。
- 余暇を積極的にとることの意義について説明できるようにする。

評価

<知識・技能③> 【ワークシート】 【観察】

<主体的に学習に取り組む態度①> 【観察】 ※4時間を通して評価することとする

| | 生徒の学習内容・活動 | 教師の指導・手立てと評価 |
|-----|---|--|
| はじめ | 1 前時までの学習を振り返る。 2 本時の目標の確認をする。 | ○本時の学習内容と学習活動を提示し、学習の見通しを持つことができるようにする。 |
| なか | 3 健康づくりプランの発表（プレゼンテーション）を行う。 ・グループ内発表を行った後、代表ペアによる全体発表を行う。 ・他のペアの発表を聞いて、自分達の考えた対策や内容を改めて見直し、気付けたことをワークシートに記入する。 4 仕事と生活の調和についての説明を聞く。 ・ライフステージに応じた働き方を選択することについて理解する。 ・余暇の有効活用について理解する。 ・仕事と生活の調和のために必要なことを整理し、ワークシートに記入する。 | ○グループ毎に進行し、全てのペアの発表が終了したら、代表ペアを選出するよう指示をする。 ○発表ペアの資料を自分の端末で見ながら発表を聞くよう指示をする。 ○他のペアの発表を聞いて、自分達の考えた対策や内容を改めて見直し、気付けたことをワークシートに記入するよう指示する。 ○仕事と生活の調和がとりやすい社会の実現のために必要なことを、具体例を示して説明する。 ○余暇の有効活用について「休養と睡眠」の学習内容と関連付けて説明をする。 <知識・技能③> 【ワークシート】 【観察】 |
| まとめ | 5 単元のまとめ ・4時間を振り返り、単元を通した発問について考える。 6 授業の振り返り、事後アンケートを記入する。 | ○4時間を振り返り単元を通した発問の内容をワークシートに記入するよう指示する。 ○授業の振り返り、事後アンケートの記入をするよう指示する。 |

【授業者としての振り返り】

健康づくりプランの発表では、グループ毎にスムーズに進行できていた。発表の際は、プレゼンテーション資料に記載されている内容の説明だけではなく、補足説明をしながら発表することができていた。全体発表では、同じ課題でもペア毎に違った取組内容を考えており、発表を聞きながら、一つの課題でも解決のための取組は多様であることに気付いている様子があった。

【研究の視点からの振り返り】

これまで事例について考えた立場や側面を生かして、多様な視点から健康の保持増進のための具体的な対策を考えることができている様子であった。また、ペア、グループ、全体の発表を通して、新たな視点に気付くことができている様子であった。

6 結果と考察

検証授業で得られたデータを基に、検証の視点 (p. 10–p. 11参照) に沿って仮説を検証した。

検証授業の各授業の出席者数は表7の通りである。事前・事後・授業アンケートの回収状況とデータ活用可能人数については表8に、全授業出席者かつ全アンケート提出者数は表9に示した通りである。

表7 各授業の出席者数

| | 1 時間目 | 2 時間目 | 3 時間目 | 4 時間目 |
|------------|-------|-------|-------|-------|
| 2年5組 (36名) | 32名 | 33名 | 30名 | 35名 |
| 2年6組 (37名) | 35名 | 34名 | 31名 | 36名 |
| 合計 (73名) | 67名 | 67名 | 61名 | 71名 |

表8 事前・事後・授業アンケートの回収状況とデータ活用可能人数

| | 事前 | 授業① | 授業② | 授業③ | 授業④ | 事後 |
|------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 2年5組 (36名) | 33 (33) | 32 (32) | 33 (33) | 30 (30) | 33 (33) | 35 (35) |
| 2年6組 (37名) | 36 (34) | 35 (34) | 34 (32) | 31 (29) | 33 (31) | 36 (34) |
| 合計 (73名) | 69 (67) | 67 (66) | 67 (65) | 61 (59) | 66 (61) | 71 (69) |

※なお、() 内はデータ活用可能人数である。

表9 全授業出席者かつ全アンケート提出者数

| | 全授業出席者かつ全アンケート提出者数 |
|------------|--------------------|
| 2年5組 (36名) | 24名 |
| 2年6組 (37名) | 26名 |
| 合計 (73名) | 50名 |

本研究の仮説を検証するにあたっては、対象の2クラスともに同じ内容の授業を行ったため、2クラスのデータを一つの集団として扱うこととした。

事前・事後アンケートの分析においては、全授業に出席かつ全アンケートを提出した50名の生徒から得られたデータで検証した。また、授業アンケートの分析においては、当該授業に出席した全生徒を対象とした。

割合を表記したグラフに関しては、小数点第1位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

なお、文中の生徒の記述については、誤字・脱字を除き、生徒が記述したままの表現で記載し、検証に係る内容を太字、下線は筆者が加筆した。

(1) 生徒は保健の授業をどのように捉えたか

ア 授業は興味深かったか

図14は、毎時間授業後に実施したアンケートの「保健の授業は、興味深かったですか」の質問（4件法）に「とても興味深かった」、「興味深かった」、「興味深くなかった」、「全く興味深くなかった」の選択肢の中から一つ選んで回答した結果の回答割合である。

表10は授業アンケートの「この授業の感想を自由にご書いてください」（自由記述）に対する回答（抜粋）である。

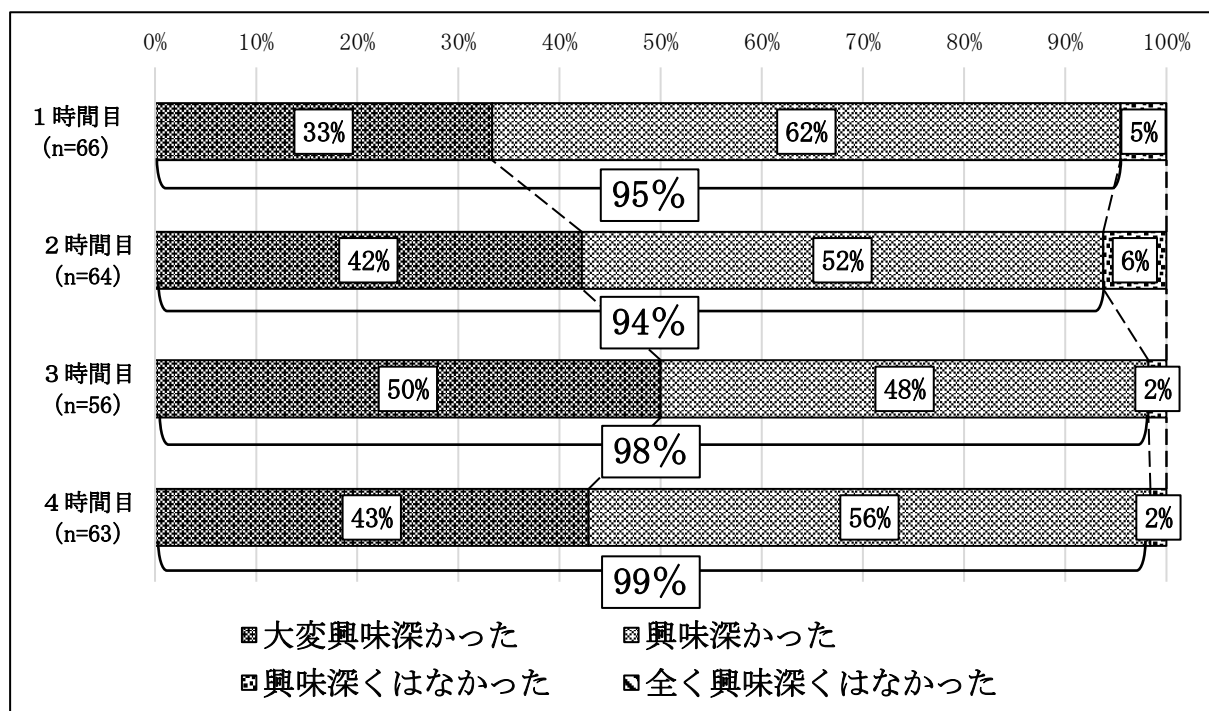


図 14 「保健の授業は、興味深かったですか」に対する回答割合の 4 時間の比較

表 10 「この授業の感想を自由にご書いてください」（自由記述）に対する回答（抜粋）

| |
|--|
| <p>社会に出る前にこういうことに<u>真剣に考える時間</u>があっただけいいなと思っていました。（1時間目）</p> <p>バイトを始めて、中学よりも社会との関わりが多くなってきたからこそ、<u>他人ごとではないんだな</u>と思いました。（2時間目）</p> <p>授業前では考えもしなかったことばかりを学べて、楽しかったです。私たちみんな、就職していないからまだ実感できていないけど、<u>もう遠い未来の話ではないから</u>、学んだことをいかして自分の就職活動で利用したり、会社をよくするための知識として利用できたらと思いました。（4時間目）</p> |
|--|

図14を見ると、4時間を通して「とても興味深かった」と「興味深かった」の肯定的な回答をした生徒が全体の94%以上という高い値となった。また、「大変興味深かった」と回答した生徒が1時間目から2時間目で9ポイント、2時間目から3時間目で8ポイント、それぞれ上昇する結果となった。3時間目から4時間目で「大変興味深かった」の回答が7ポイント下がったのは、4時間目の学習活動は発表が中心だったからではないかと推察されるが、肯定的な回答の割合に変化は見られなかった。

また、表10を見ると、下線部のように「真剣に考える」や「他人ごとではない」、「遠い未来の話ではない」などの記述が見られたことから、生徒は学習内容に興味を持って授業に取り組むことができたと考えられる。

イ 授業の中で新しい発見があったか

図15は、毎時間授業後に実施したアンケートの「授業の中で新しい発見がありましたか」の質問（4件法）に「かなりあった」、「あった」、「なかった」、「全くなかった」の選択肢の中から一つ選んで回答した結果の回答割合である。

表11は授業アンケートの「この授業の感想を自由に書いてください」（自由記述）に対する回答（抜粋）である。

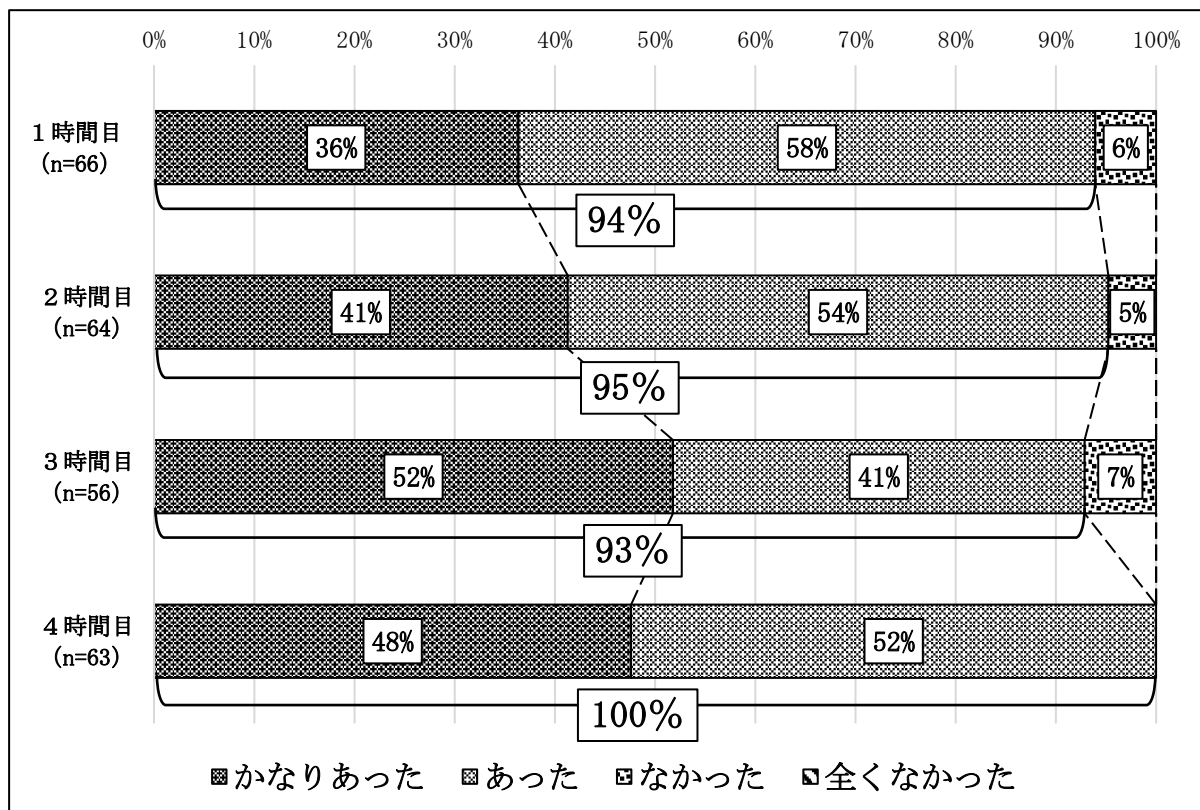


図 15 「授業の中で新しい発見がありましたか」に対する回答割合の4時間の比較

表 11 「この授業の感想を自由に書いてください」（自由記述）に対する回答（抜粋）

| |
|---|
| <u>こんなに健康と働くことに関係があるとは思っていなかった</u> です。（1時間目） |
| 職場に求めるものはお金ぐらいかなって思ったけど、 <u>考えてみると意外と大切なことも見落としていてたくさんある</u> なと思いました。（1時間目） |
| 労働基準法という言葉聞いたことはあったけど、 <u>具体的な内容は知らなかったから、調べて学ぶことができてよかった</u> 。（3時間目） |
| いろんなグループのいろんな案を聞いて面白かった。 <u>働くことに対してのイメージが変わった</u> なって思った。（4時間目） |

図15を見ると、4時間を通して「かなりあった」と「あった」の肯定的な回答をした生徒が全体の93%以上という結果であった。4時間目では、100%の生徒が肯定的な回答をした。

また、表11を見ると、下線部のように、学習活動を通して新たな知識を習得し、考えが変化したことに気付いている記述が見られたことから、他者との対話的な活動や法律について調べる活動を取り入れたことで、新たな発見や気づきがあったと考えられる。

ウ 授業の中で様々な視点から考えることができたか

図16は、毎時間授業後に実施したアンケートの「授業の中で様々な視点から考えることができましたか」の質問（4件法）に「かなりできた」、「できた」、「できなかった」、「全くできなかった」の選択肢の中から一つ選んで回答した結果の回答割合である。

表12は授業アンケートの「この授業の感想を自由にご書いてください」（自由記述）に対する回答（抜粋）である。

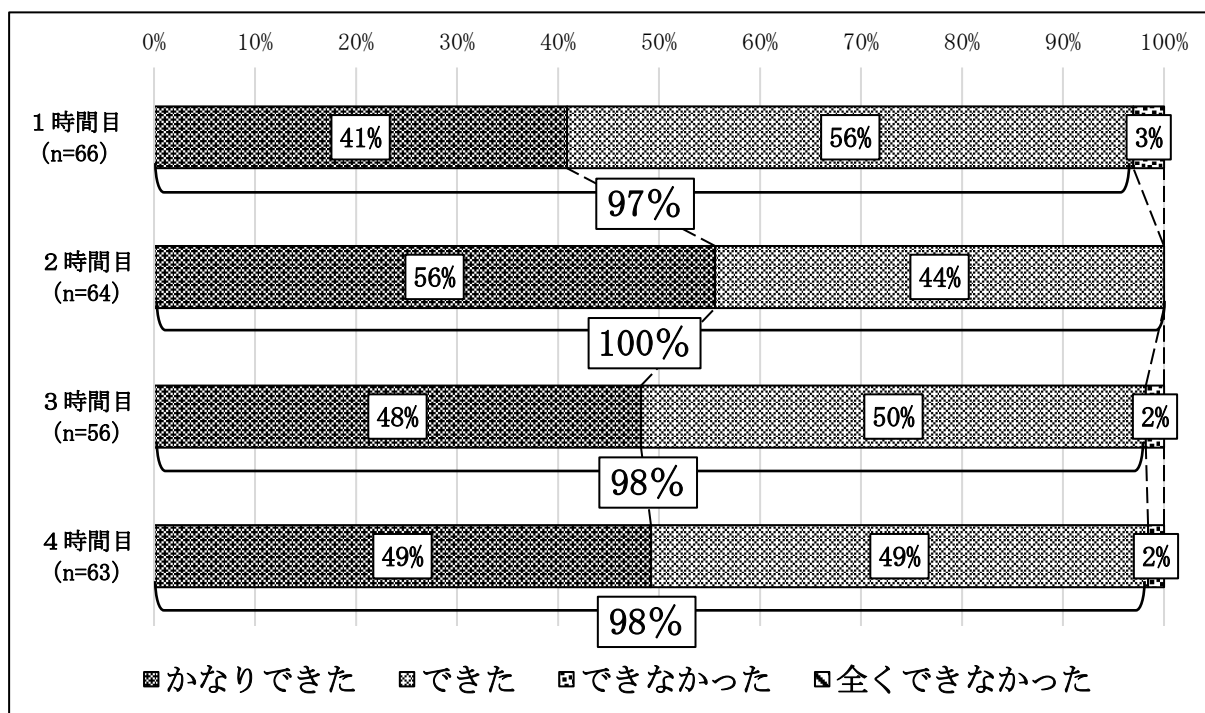


図 16 「授業の中で様々な視点から考えることができましたか」に対する回答割合の4時間の比較

表 12 「この授業の感想を自由にご書いてください」（自由記述）に対する回答（抜粋）

| |
|---|
| 今回の保健の授業では、 <u>最初に考えていたこととはまた違うような考えがたくさんできて面白かった</u> です。（1時間目） |
| <u>自分にはない考え方や視点を沢山知ることができた</u> 。この授業だけでもかなり健康と働くことが深く関わりあっていることがわかった。（1時間目） |
| 対策や原因を考えるのは難しかったけど、 <u>ペアの人や班の人の意見を聞いて、自分にはない視点が広がった</u> 。（2時間目） |
| <u>会社の立場から見ると</u> 、色々な方向に気を使って考えていかなきゃいけないんだなと思いました。（3時間目） |
| <u>皆がどう考えたのか、どこに注目したのか</u> がよくわかった授業だったと思います。（4時間目） |

図16を見ると、4時間を通して「かなりできた」と「できた」の肯定的な回答をした生徒が全体の97%以上という高い結果であった。2時間目では、100%の生徒が肯定的な回答をしている。また、「かなりできた」と回答した生徒が、1時間目から2時間目では15ポイント上昇という大きな変化が見られた。

また、表12を見ると、生徒間の対話的な活動や、働く人以外の立場や側面から考える活動を取り入れたことで、自分と異なる視点での考えや様々なものの見方、感じ方、考え方に触れることができ、異なる視点を実感することができたと考えられる。

エ 生活に役立つような内容があったか

図17は、毎時間授業後に実施したアンケートの「生活に役立つような内容がありましたか」の質問（4件法）に「かなりあった」、「あった」、「なかった」、「全くなかった」の選択肢の中から一つ選んで回答した結果の回答割合である。

表13は授業アンケートの「この授業の感想を自由に書いてください」（自由記述）に対する回答（抜粋）である。

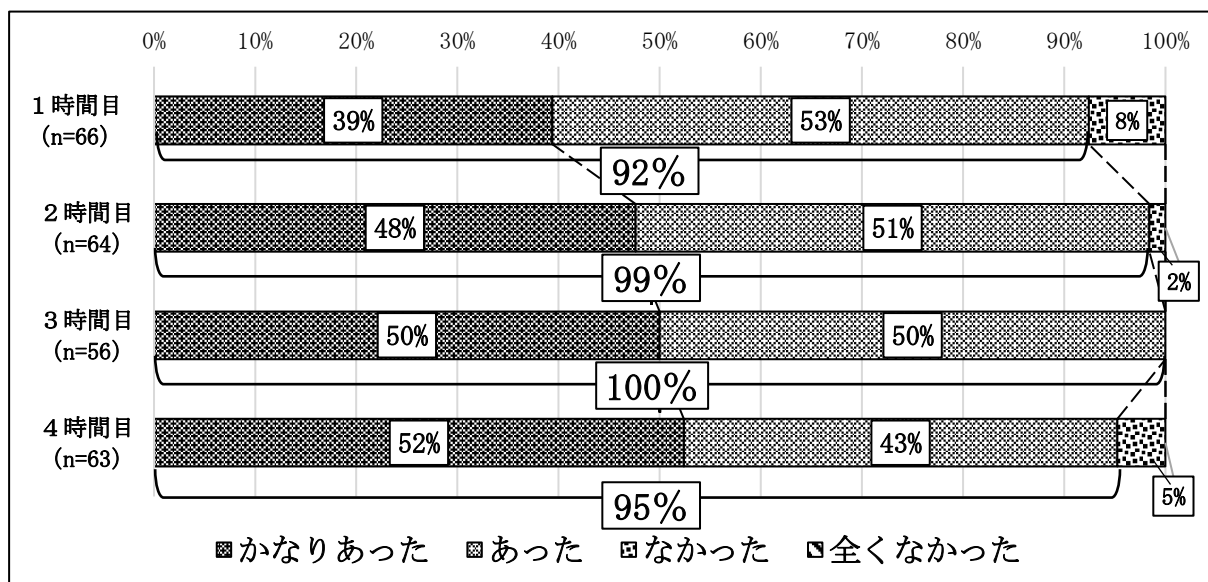


図 17 「生活に役立つような内容がありましたか」に対する回答割合の4時間の比較

表 13 「この授業の感想を自由に書いてください」（自由記述）に対する回答（抜粋）

| |
|--|
| <u>将来自分も働くとき</u> に、今日学んだことを思い出して、より良い職場で働くことができるようにしたいです。（2時間目） |
| <u>自分が働くときになったら</u> 、職場がどんな雰囲気働きやすいかとかをちゃんとみようと思った。（3時間目） |
| <u>自分が大人になって働くとき</u> 、今日まで学んだことを意識して自分に合った働き方ができたらいいなと思いました。（4時間目） |

図17を見ると4時間を通して「かなりあった」と「あった」の肯定的な回答をした生徒が全体の92%以上という結果であった。3時間目では、100%の生徒が肯定的な回答をしている。

表13を見ると、自己の将来と結び付けて考える記述が見られたことから、生活に役立つ内容であったと考えられる。

○検証の視点「(1) 生徒は保健の授業をどのように捉えたか」のまとめ

- ・「興味深かったか」、「新しい発見があったか」、「様々な視点から考えることができたか」、「生活に役立つような内容があったか」の4点で保健の授業評価を実施した結果、どの項目においても肯定的な回答が多く、ほとんどの生徒が保健の授業を肯定的に捉えていた。
- ・どの項目にも否定的な回答が少数あり、同一の生徒による回答が多かった。それぞれの記述等を分析したところ、当該生徒の授業への参加状況にも問題はなく、記述内容も否定的な理由がなかった。当該生徒は、全体を通して厳しく自己評価をしている傾向が見られた。

(2) 多様な視点から考えることができたか

表14に示した「活動1～活動3」について、事後アンケートで『活動1～活動3』を通して、働く人の健康を考える視点を増やすことができましたか」という質問（4件法）に「増えた」、「どちらかという増えた」、「どちらかという増えていない」、「増えていない」の選択肢の中から一つ選んで回答した結果の回答割合を図18に示した。

表 14 「活動1～活動3」の内容

| | |
|-----|-----------------------|
| 活動1 | 「労働者の立場」から考える活動 |
| 活動2 | 「健康・安全を管理する立場」から考える活動 |
| 活動3 | 「法律や制度」から考える活動 |

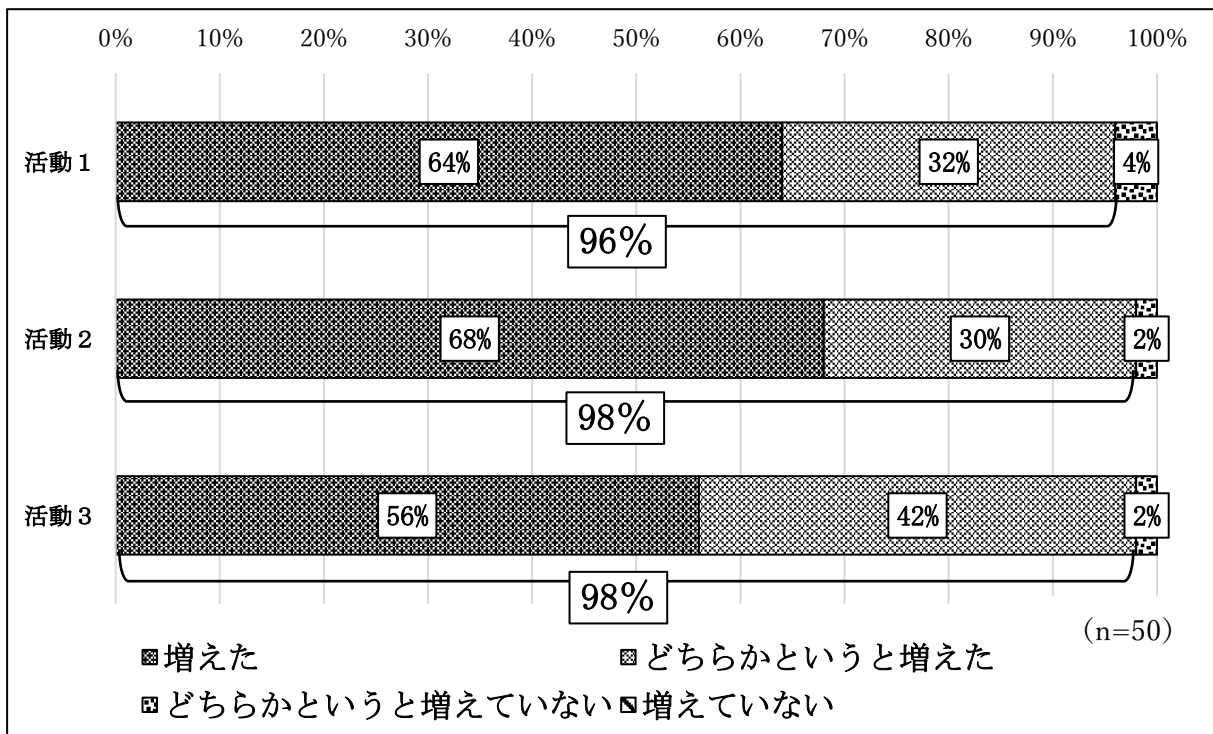


図 18 「『活動1～活動3』を通して、働く人の健康を考える視点を増やすことができましたか」という質問に対する回答割合（事後アンケート）

図18を見ると、「働く人の健康」を考える視点が「増えた」と「どちらかという増えた」の肯定的な回答をした生徒は、活動1では96%、活動2と活動3では98%と高い数値であった。考える立場や側面を設定したことに加え、興味深い授業となったことで、生徒は多様な視点を持つことができたと考えられる。

図19は、『活動1～活動2』を通して、労働災害防止のための対策を考える上で役に立ちましたか』及び『活動3』は、労働災害防止を理解する上で役に立ちましたか』という質問（4件法）に「役に立った」、「どちらかというと役に立った」、「どちらかというと役に立たなかった」、「役に立たなかった」の選択肢の中から一つ選んで回答した結果の回答割合である。

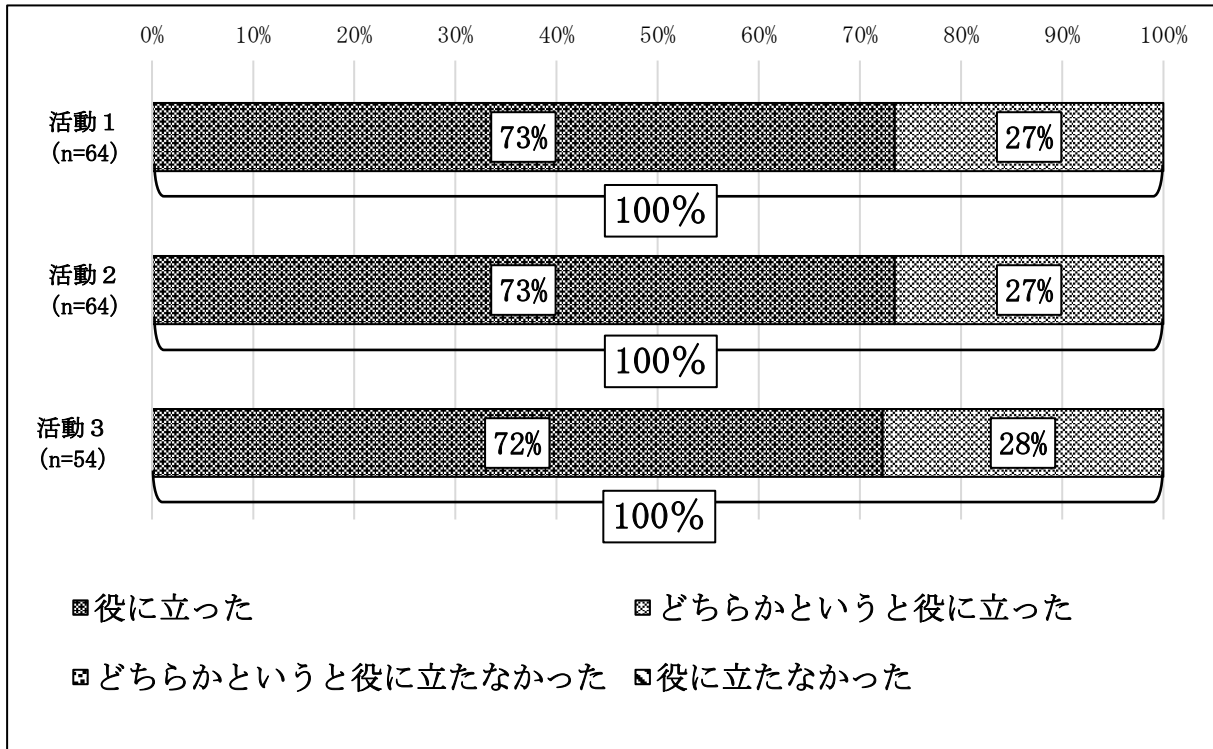


図19 「『活動1～活動3』を通して、労働災害防止のための対策を考える（理解する）上で役に立ちましたか』という質問に対する回答割合（授業アンケート）

図19を見ると、労働災害防止のための対策を考える上で「役に立った」と「どちらかというと役に立った」の肯定的な回答をした生徒が、活動1～活動3の全てで100%という結果であった。考える立場や側面を設定したことで、課題を捉えやすく、原因や対策を考えるために役に立ったと考えられる。

図20は、「ペアワークやグループワークは働く人の健康を考える上で役に立ちましたか」という質問（4件法）に「役に立った」、「どちらかというと役に立った」、「どちらかというと役に立たなかった」、「役に立たなかった」の選択肢の中から一つ選んで回答した結果の回答割合である。

表15は授業アンケートの「この授業の感想を自由に書いてください」（自由記述）に対する回答のうち、ペアワークやグループワークなどの他者の考えに触れる機会についての内容（抜粋）である。

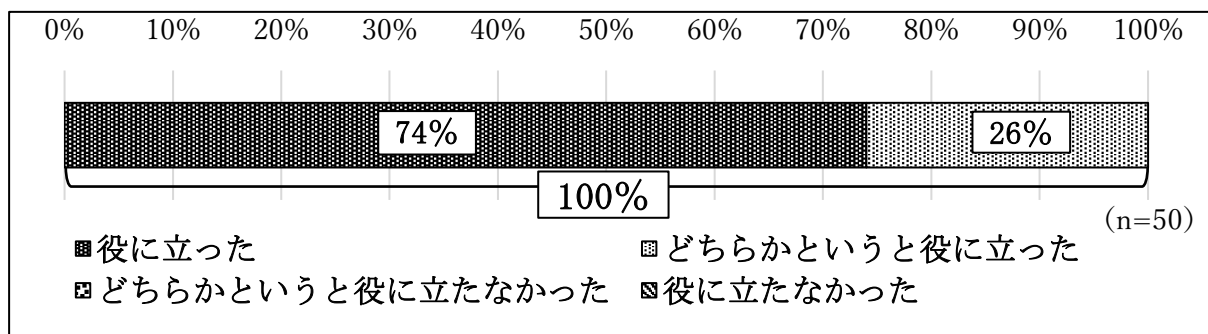


図 20 「ペアワークやグループワークは働く人の健康を考える上で役に立ちましたか」という質問に対する回答割合（事後アンケート）

表 15 「この授業の感想を自由に書いてください」（自由記述）に対する回答のうち、ペアワークやグループワークなどの他者の考えに触れる機会についての内容

| |
|---|
| <u>自分にはない考え方や視点を沢山知ることができた。</u> この授業だけでもかなり健康と働くことが深く関わりあっていることがわかった。 |
| 働くことで起こった事故のことで、自分はその人の注意が足りなかったから起きたのかなと思ったけど、 <u>他の人の意見を聞いて、環境の安全性とか視点を調べてみるだけで、いろんな見方があるなと思いました。</u> |
| <u>ペアワークで作業を行い、発表をして、自分になかった取組や改善の方法を知れてとても良い機会でした。</u> |
| <u>発表により、他の人の考えを知ることが出来たので、このような考え方があったのかと学ぶことができた。</u> |
| <u>みんな着眼点が違って聞いていてすごく勉強になることが多かった。</u> |

図20を見ると、100%の生徒が「役に立った」、「どちらかというと役に立った」の肯定的な回答であった。また、表15を見ると、ペアワークやグループワークを通して他者の考えを知ることの重要性に気付いている記述が見られた。

○検証の視点「(2) 様々な視点から考える学習活動であったかどうか」のまとめ

- ・アンケート結果から、活動1～活動3に大きな差はなく、どの活動においてもほとんどの生徒は、労働災害防止や働く人の健康の保持増進に関する内容を多様な視点で捉え、対策や取組を考えることができていた。
- ・アンケート結果と記述内容から、ペアワークやグループワークを通して多様な価値観を持つ他者の考えに触れることで、自分とは違った視点に気付くことができたと考えられる。

上記のことから、本研究における学習活動は、働く人の健康を多様な視点から考えることに有効に機能したと考えられる。

(3) 社会的対策の認識が深まったか

ア 知識を習得できたか

図21は、「労働災害（働くことが原因で起こるけがや病気）の防止や働く人の健康の保持増進のための社会的対策を知っていますか」という質問（4件法）に「知っている」、「どちらかという知っている」、「どちらかという知らない」、「知らない」の選択肢の中から一つ選んで回答した結果の回答割合を事前・事後で比較したものである。

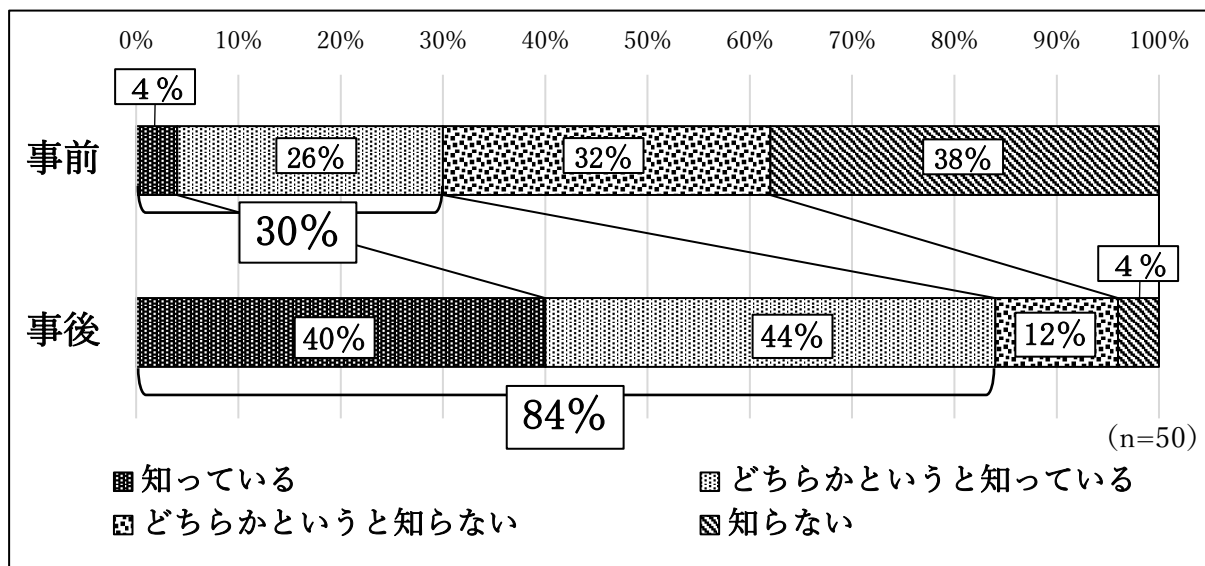


図21 「労働災害（働くことが原因で起こるけがや病気）の防止や働く人の健康の保持増進のための社会的対策を知っていますか」という質問に対する回答割合の事前・事後の比較

図21を見ると、「知っている」と「どちらかという知っている」と回答した生徒が、事前は30%、事後は84%と54ポイント上昇する結果となった。

表16は、「知っている」と「どちらかという知っている」の肯定的な回答をした生徒を対象に行った「社会的対策について知っていることを具体的に書いて下さい」（自由記述）の質問に対する回答のうち、複数の生徒が記述した単語を事前・事後で示したものである。

表16 「社会的対策について知っていることを具体的に書いて下さい」（自由記述）に対する回答

| 事前 | 事後 |
|-------|-------|
| 労働基準法 | 制度 |
| 有給 | 労働基準 |
| 健康診断 | 会社 |
| 育休 | ラジオ体操 |
| 検温 | 安全 |
| 残業 | 環境 |
| 労働時間 | 社員 |
| | 相談 |
| | 定期的 |
| | 整備 |
| | 健康 |
| | 法律 |
| | ストレス |

表16を見ると、事後では、授業で精神疾患の内容を扱ったことで、事前には見られなかった心の健康に関する内容の記述が出現した。また、法律や制度に関する内容の記述が増加したことから、「労働と健康」に係る社会的対策についての知識を習得したことが分かる。

イ 思考力、判断力、表現力等をより働かせることができたか

事前・事後アンケートの「健康に生き生きと働くためにはどうしたらよいと考えますか」(自由記述)という質問に対する記述内容を、表17に示した項目とカテゴリーに分類し、検証した。

分類の項目とした「個人の取組」と「社会的対策」は、『解説』の例示にある「労働災害と健康について、習得した知識を基に、労働災害の防止に向けて、個人の取組と社会的対策を整理すること」の記載を踏まえて設定したものである(文部科学省 2019 p.209)。また、これら二つの項目をさらに分類した四つのカテゴリーは、指導内容と生徒の記述内容を踏まえ、設定したものである。

これらを基にして生徒の記述内容を分類する判断は、当センター指導主事等と複数の人数で行った。

表 17 記述内容の分類

| 項目 | カテゴリー |
|---------|---------------------|
| 「個人の取組」 | ・個人の健康管理に関する内容 |
| | ・個人の働き方に関する内容 |
| 「社会的対策」 | ・会社の安全管理、健康管理に関する内容 |
| | ・法律や制度に関する内容 |

図 22 は、分類の項目「個人の取組」と「社会的対策」について、記述の有無を確認し、記述のあった生徒を「社会的対策のみ」、「個人の取組と社会的対策の両方」、「個人の取組のみ」に分類した割合を事前・事後で比較したものである。

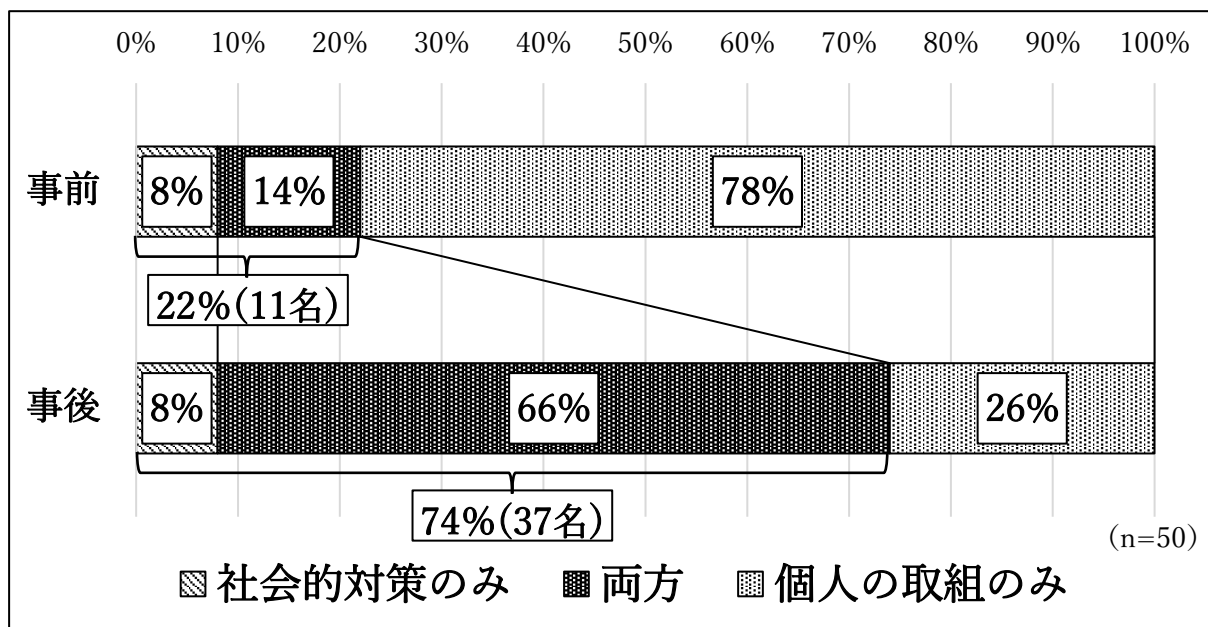


図 22 「個人の取組」と「社会的対策」の記述があった生徒の割合

図22を見ると、「社会的対策のみ」もしくは、「個人の取組と社会的対策の両方」に関する内容を記述した生徒の合計が事前では22% (11名)であり、事後では74% (37名)と52ポイント上昇する結果となった。また、「個人の取組と社会的対策の両方」を記述した生徒は、事前では14%、事後では66%と52ポイント上昇する結果となった。

図23は、事前・事後の категория別記述内容数の変化を示したでグラフである。なお、一人の記述に複数の категорияがあればその categoria毎にカウントしたが、同じ categoriaに該当する内容が複数記述されていた場合は1としてカウントした。

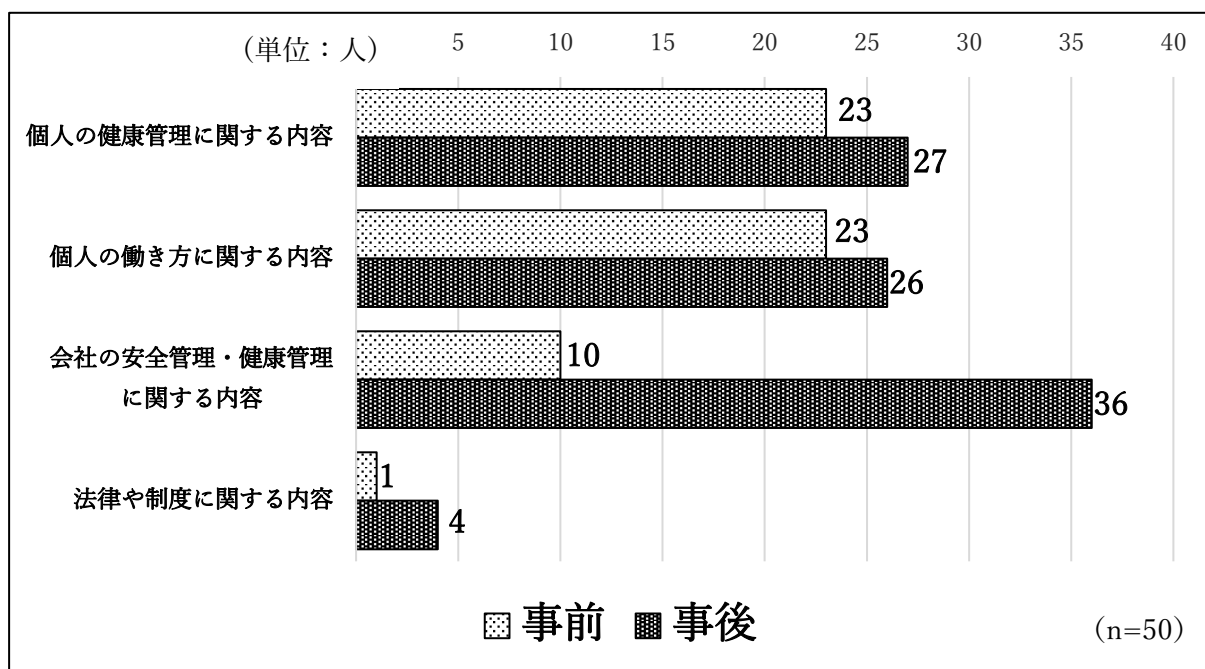


図 23 事前・事後の categoria別記述内容数の変化

図23を見ると、「社会的対策」の二つの categoriaのうち、「会社の安全管理・健康管理に関する内容」が大きく増加したことが分かる。これは、事例で勤務形態や職場環境等の内容を扱ったことによって、生徒は働く人の健康を管理する会社側の具体的な取組について考えやすくなり、このような結果になったと推察される。「法律や制度に関する内容」については、働く人の健康を守るための法律や制度があることに気付くことはできたものの、個人の健康にどのように関わっているのかの認識を十分に持たせることができなかったため、このような結果になったと考えられる。

次に、図22で社会的対策に関する記述のあった37名の生徒の記述内容を事前・事後アンケートで比較し、分析した。

表18は、思考力、判断力、表現力等を見とる観点とより働かせることができたかを判断した基準を示したものである。

表 18 思考力、判断力、表現力等を見とる観点とより働かせることができたかを判断した基準

| 観点 | より働かせることができたと判断した基準 |
|-----|--|
| 具体的 | 社会的対策について、例を挙げるなどより具体的に説明しているか。 |
| 論理的 | 社会的対策が必要であることを、理由を述べるなど、より論理的に説明しているか。 |
| 全体的 | 社会的対策と個人の健康を結び付けるなど、より全体的に説明しているか。 |

図24は、表18を基に、生徒の記述内容を事前・事後で比較し、思考力、判断力、表現力等をより働かせることができたと判断した記述の割合を示したものである。

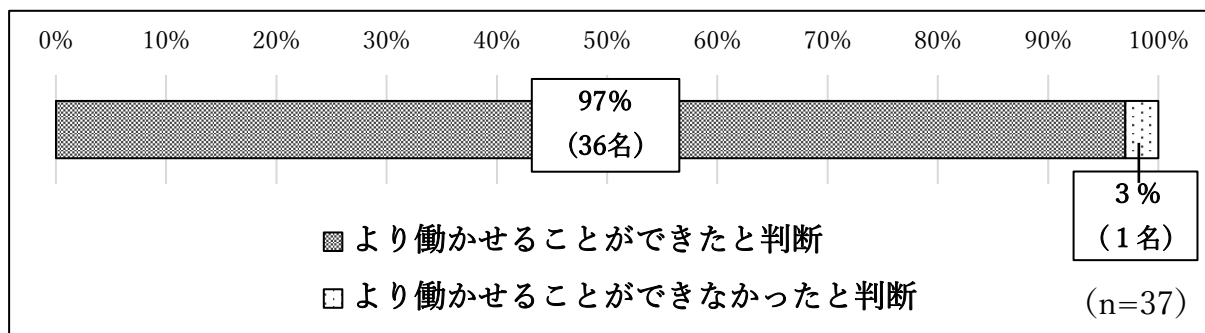


図 24 思考力、判断力、表現力等をより働かせることができたと判断した記述の割合

図24を見ると、97%の生徒が思考力、判断力、表現力等をより働かせることができたとして判断できる記述であった。そのうち、より働かせることができたとして判断した97%（36名）の観点毎の内訳を図25に示した。

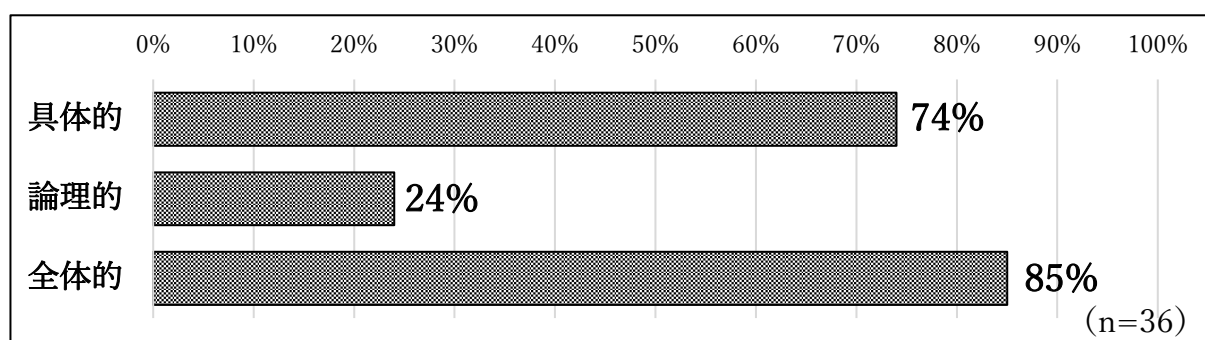


図 25 思考力、判断力、表現力等をより働かせることができたとして判断した記述の観点毎の割合

図25を見ると、具体的、全体的に説明できている生徒が多く、これは、事例について課題解決のために考えた具体的な対策や取組の内容が、働く人の健康・安全と結び付いていることに気付くことができたからであると推察される。一方で、論理的な説明をしている生徒が少なかったのは、具体的に考えた内容を原則や概念にあてはめ、理由を述べるなど論理的に説明するための手立てが不足していたためであると考えられる。

表19は、思考力、判断力、表現力等をより働かせることができたとして判断した生徒の事前・事後アンケートの記述内容の変化を観点毎に示したものである。

表 19 観点毎の思考力、判断力、表現力等をより働かせることができたとして判断した生徒の事前・事後アンケートの記述内容（抜粋）

| | | | |
|-----|------|----|--|
| 具体的 | 生徒 A | 事前 | 無理をしない、させないようにする。 |
| | 生徒 A | 事後 | 無理せず、仕事と生活のバランスをしっかりと考える。悩みがあったら話しやすい人、 <u>機関に相談する。</u> |
| 論理的 | 生徒 B | 事前 | 普段からの手洗いなど小さなことの積み重ねで健康を守っていく。 |
| | 生徒 B | 事後 | <u>結婚・出産など、社員の生活が変化した時に、リモートなどを取り入れた多様な働き方に会社側が協力し、サポートすること。</u> 生活と仕事をバランス良く行うこと。 |
| 全体的 | 生徒 C | 事前 | 早寝早起き朝ごはん。バランスが取れた食事。適度な運動。 |
| | 生徒 C | 事後 | <u>自分の生活が大切だけど、その生活は仕事によってバランスが崩れてしまいかもしれないから、会社での取組が大切だと思う。</u> |

生徒A、生徒B、生徒Cは事前には社会的対策に関する記述がなかった。事後では、生徒Aは「機関に相談する」という制度に関する具体的な内容に触れて説明している。生徒Bはライフステージの変化に合わせた多様な働き方の重要性を論理的に説明している。生徒Cは自身が健康的な生活を送るために必要なことを、社会的対策と結び付けて説明している。

表20は、観点毎の思考力、判断力、表現力等をより働かせることができたと判断した生徒のうち、特に大きな変容が見られた生徒の事前・事後アンケートの記述内容である。

表 20 特に大きな変容が見られた生徒の事前・事後アンケートの記述内容（抜粋）

| | | |
|-----|----|---|
| 生徒D | 事前 | 自分自身で体調を管理して無理せず仕事をする。 |
| | 事後 | 社員の健康を守るためには、個人で取り組むことも大事だが、 <u>それだと継続するのが難しいので、職場で食堂を作ったり、運動不足を解消するために毎朝皆で運動したり</u> など、対策ができれば良いなと思いました。みんなで行うことでより仲が深まったり、会社の雰囲気良くなると思いました。 |
| 生徒E | 事前 | 生活習慣を乱さないようにする。 |
| | 事後 | 働くためには、周りの人々と協力することで、できると私は考えました。 <u>協力するとみんなの意見で仕事場がより良い会社になったり、自分たちでし合ったんだから、しっかりやろうという感じで集中力を切らすこともなく事故をすることもなく、働けるのではと私は考えました。</u> 自分のことを考えながら、仕事するのも大切だけど、周りを見れる人が一番生き生きとできると思う。 |

生徒Dは、会社の取組の例を挙げて具体的に説明していることに加え、取組が必要な理由を述べており、具体的かつ論理的に説明することができている。生徒Eは、「周りの人々と協力すること」を働く人の健康と結び付け、その必要性を論理的に説明することができている。

これらのように、社会的対策に関する内容を記述した生徒が事前に比べ、事後に多くいたことから、働く人の健康・安全と社会的対策の結び付きに気付くことができたと考えられる。さらに、記述内容の分析からは、思考力、判断力、表現力等をより働かせることができたと考えられる。

一方で、思考力、判断力、表現力等をより働かせたと判断できなかった生徒が1名いた。その生徒の記述を表21に示した。

表 21 思考力、判断力、表現力等をより働かせたと判断できなかった生徒の記述

| | | |
|-----|----|-----------------------------------|
| 生徒F | 事前 | 自分の中で小さな目標を作っておく。 |
| | 事後 | 労働によって生まれる労働災害に対する取組やそれを強化する法の整備。 |

生徒Fは、事前では社会的対策に関する記述はなかった。事後では、「労働災害に対する取組」や「法の整備」といった社会的対策に関する習得した知識の記述があったものの、思考力、判断力、表現力等をより働かせることができたと判断できる記述は見られなかった。

○検証の視点「(3) 社会的対策の認識が深まったか」のまとめ

- ・ 8割以上の生徒が、「労働と健康」に係る社会的対策についての知識を習得することができた。
- ・ 発問に対する回答に、社会的対策に関する内容を記述した生徒が事前アンケートに比べて事後アンケートで増加した。また、記述内容においては、7割以上の生徒が具体的、論理的、または全体的に説明する記述であり、思考力、判断力、表現力等をより働かせることができていたと考えられる。

上記のことから、多くの生徒が社会的対策の認識を深めることができたと考えられる。

第4章 研究のまとめ

本研究は、単元「労働と健康」において、多様な視点から考える対話的な活動を通して、社会的対策の認識を深めることを目指し、授業を実践した。その結果、個人の健康と社会的対策との結び付きを考えることができ、「労働と健康」に係る社会的対策の認識を深めることにつながった。

そして、仮説検証の結果等から、本研究の成果と今後の展望と課題を次のように整理した。

1 研究の成果

(1) 「多様な視点から考える対話的な活動」の有効性

本研究では、「労働と健康」に係る社会的対策の認識を深めるために、多様な視点から考える対話的な活動を取り入れた授業を行った。働く人の健康課題を捉えやすい事例を用いたことで、生徒は興味・関心を持って取り組むことができた。また、考える立場や側面を設定したことや、対話的な活動を取り入れたことで、多様な視点から働く人の健康・安全を考え、社会的対策との結び付きに気付くことができ、多くの生徒が社会的対策の認識を深めることにつながったと考えられる。

(2) 働くことへのイメージの変化

図28は、「働くことにどのようなイメージを持っていますか」の質問に対する、単元の前後の回答をワードクラウドに示したものである。なお、回答数が多い文字ほど大きく中央に表示されている。

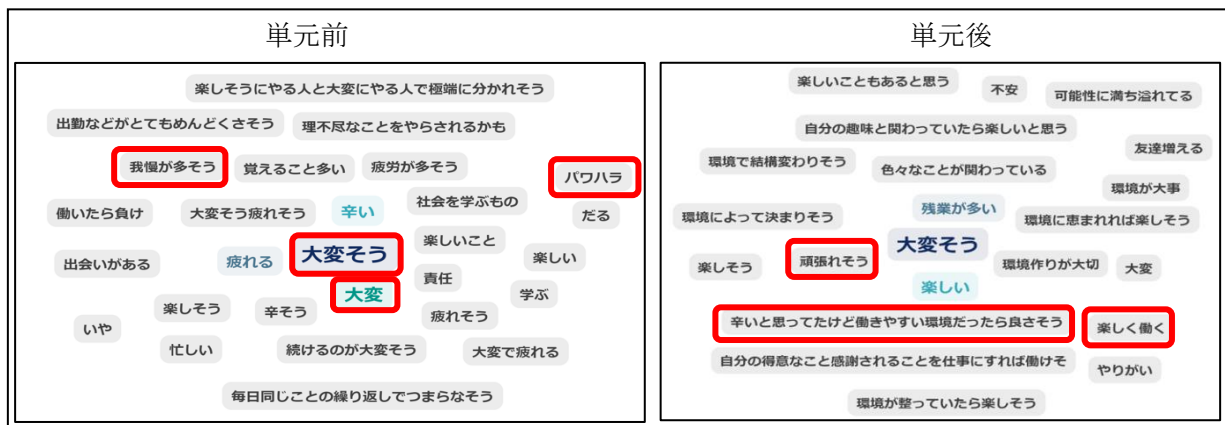


図28 「働くことにどのようなイメージを持っていますか」の質問に対する、単元の前後の回答

図28を見ると、単元前は「大変そう」、「辛い」、「パワハラ」、「我慢が多そう」など、働くことに対して否定的な回答が多い。単元後は「大変そう」、「不安」といった否定的な回答もあるものの、「頑張れそう」、「楽しく働く」、「働きやすい環境だったら良さそう」など、肯定的な回答が増加した。

表22は、「4時間の授業の感想を自由に書いてください」の質問への記述内容の抜粋である。

表 22 4時間を通した生徒の感想（一部抜粋）

| |
|---|
| 今まで働くのはめんどくさいし、お金をかせぐために働いてるんだなと思っていましたが、人生の大半は働くわけだし、 <u>楽しく働けたらいいな</u> と思いました。どうせ働くなら <u>たのしい会社</u> でみんなで健康に生きがいでして働けたらいいなと思いました。 |
| 今までは <u>働くことについてあまり良くないイメージがあって、だいたいブラックな感じなんだろうな</u> と思ったけど、そんなことはなくて会社側にもいろいろな対策があるんだなと思いました。 |
| 4時間保健の授業を受けてみて、今まで仕事は辛くていやなものと言う印象しかなかったものの、 <u>少しだけ楽しそうや、やってみたいなどの考えができました。</u> |

表22においても、働くことについて肯定的な記述があり、授業を通して、働く人の健康・安全のために社会的対策が重要であることを学び、働くことに対して肯定的なイメージを持つことができたと考えられる。

2 研究の課題と展望

筆者が作成した架空の事例を扱い、課題を捉えやすくしたことは、社会的対策のうち、会社の安全管理や健康管理が働く人の健康に関わっていることの認識を深めることには有効に機能したが、法律や制度に関わっていることの認識を十分に持たせることはできなかった。より法律や制度が働く人の健康に関わっていることの認識を持つことができるようにするためには、身近で現実的に捉えることができるような同じ高校生や身近な人が関わった実際の事例や、法令改正に関わった事例などを扱うとよいのではないかと考える。

また、学習した内容を将来の自己に結び付けて考えさせることが不十分であったため、個人の意思決定・行動選択につながる学習の工夫が必要であったと考える。さらに、より自己に結び付けて考えるために、キャリア教育との関連を図ることも有効であると考えられる。

労働と健康の学習内容は、高等学校で初めて学習する内容であるため、生徒が原因と対策を考える際、一次予防、二次予防に関する内容に偏ってしまった。原因や対策を考えるだけでなく、三次予防につながる発展的な課題に取り組むことができるような教材の工夫が必要であると考える。

3 おわりに

本研究を行うにあたり、検証授業の準備から実施まで多くの協力をいただいた秦野曾屋高等学校の山口正樹校長をはじめ、教職員の方々、また、専門的な見地から様々な指導・助言をいただいた聖心女子大学の植田誠治氏、神奈川県教育委員会保健体育課、中教育事務所の指導主事の方々に感謝申し上げます。

そして、毎時間の授業に前向きに取り組むことができる秦野曾屋高等学校の生徒たちに敬意を示すとともに、授業に関連する調査に協力いただいた保護者の方々に感謝申し上げ、結びとする。

[担当指導員]

五島 麻美 指導主事 外赤 広太 指導担当主事 水野 昌享 教育指導専門員

[引用・参考文献]

- 国立政策研究所 2015 「平成27年度高等学校学習指導要領実施状況調査教師質問紙調査（保健）」
pp. 24-32
- 国立政策研究所 2015 「平成27年度高等学校学習指導要領実施状況調査生徒質問紙調査（保健）」
p. 9
- 日本学校保健会 2022 「保健教育の指導と評価」 p. 53
- 文部科学省 2019 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』文部科学省
- 文部科学省 2019 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育 体育編』東山書房
- 今村修 2017 「保健授業で『認識が深まる』とは何か」（『体育科教育8月号』）大修館書店 pp. 40-41
- 白石龍生・宮井信之・森岡郁晴・宮下和久・武田眞太郎 1998 「保健授業の生徒による評価の研究」（『日本健康教育学会誌』第5巻） p. 20
- 藤原昌太 2023 「健康観を揺さぶる保健の授業づくり」（『体育科教育8月号』）大修館書店 pp. 30-31